

北海道大学小児科  
平成18(2006)年度  
業績集

2007年10月発行

北海道大学小児科平成18(2006)年度業績集 目次

2006 年度版北大小児科年報の発刊にあたって.....3

免疫グループ ..... 4  
 血液グループ ..... 10  
 神経グループ ..... 15  
 腎臓グループ ..... 19  
 内分泌・糖尿病グループ..... 21  
 循環器グループ ..... 24  
 新生児グループ ..... 27  
 感染グループ ..... 29  
 遺伝グループ ..... 31  
 代謝消化器病グループ..... 33

関連病院

市立札幌病院 ..... 36  
 札幌厚生病院 ..... 40  
 KKR 札幌医療センター ..... 44  
 天使病院 ..... 48  
 北海道社会保険病院..... 52  
 手稲溪仁会病院 ..... 55  
 北海道がんセンター..... 59  
 JR 札幌鉄道病院 ..... 63  
 北海道医療大学病院..... 68  
 愛育病院 ..... 71  
 札幌北楡病院 ..... 74  
 楡の会こどもクリニック..... 77  
 江別市立病院 ..... 80  
 市立美唄病院 ..... 83  
 美唄労災病院 ..... 86  
 市立三笠総合病院 ..... 89  
 市立小樽病院 ..... 92  
 倶知安厚生病院 ..... 95  
 岩内協会病院 ..... 98

市立千歳市民病院 .....	101
恵み野病院 .....	104
王子総合病院 .....	107
日鋼記念病院 .....	110
新日鐵室蘭総合病院.....	113
伊達赤十字病院 .....	116
市立旭川病院 .....	119
北見赤十字病院 .....	122
美幌町立病院 .....	125
函館中央病院 .....	128
函館五稜郭病院 .....	131
帯広協会病院 .....	134
帯広厚生病院 .....	137
釧路赤十字病院 .....	140
釧路労災病院 .....	143
町立中標津病院 .....	146
市立根室病院 .....	149

## 2006 年度版北大小児科年報の発刊にあたって

2006年度版の小児科年報をお届けいたします。

相変わらず大学内外の人材不足が影響し、関連病院の人事の対策に医会長共々苦慮している毎日です。そのような背景の中で私ども北大小児科の仲間たち；大学関係者、関連病院関係者などがどの様に活躍し、成果を上げているかを示す資料が毎年発刊しているこの年報です。いわば一年間の農作業における努力の成果を示す収穫物展示会の様なものです。この年度は豊作だったのでしょうか？自らも振り返ってこれまでの活動を反省し、明日へのエネルギーに換えていこうと思っています。

従来からの印刷物の形から場所をとらず、省エネ、エコロジーの流れ、おしゃれ？、後日の大編集作業の効率化のため、などを考慮しての CD 版にしてから 3 版目になります。気軽に眺められる印刷部の方が良いとの意見が一部ある事は聞いておりますが、ご面倒でも是非とも閲覧していただきたいと思っています。

この度北大小児科のホームページも刷新いたしました。今後はさらに充実していきたいと思っております。この年報の内容もリンクしていく予定です。併せてお気軽に訪れてご覧いただき、感想、ご意見などをいただけると幸いです。

北海道大学大学院医学研究科・  
病態制御学専攻・生殖発達医学講座・小児科学分野教授

有 賀 正

## 免疫グループ

### 所属メンバー

- ・有賀 正 (教授、昭和 53 年卒)
- ・川村 信明 (助教授、昭和 54 年卒)
- ・山田 雅文 (助手、平成 2 年卒) (平成 18 年 5 月～)
- ・波多野典一 (医員、平成 4 年卒) (～平成 18 年 9 月)
- ・戸板 成昭 (大学院生、平成 8 年卒)

### 外来患者数 774 人/年

#### 外来患者疾患別割合

- 1) アレルギー性疾患 : 11% (気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎など)
- 2) リウマチ性疾患 : 56% (若年性特発性関節炎、若年性皮膚筋炎、シェーグレン症候群、全身性エリテマトーデス、混合性結合組織病、周期性発熱、結節性多発動脈炎、炎症性腸疾患など)
- 3) 免疫不全症 : 33% (X 連鎖重症複合免疫不全症、ADA 欠損症、慢性肉芽腫症、X 連鎖無  $\gamma$ -グロブリン血症、高 IgM 症候群、高 IgE 症候群、Wiskott-Aldrich 症候群、慢性皮膚粘膜カンジダ症、DiGeorge 症候群など)

北大病院以外での免疫・アレルギー外来 : 川村が 1-2 ヶ月毎に出張  
帯広厚生病院、岩内協会病院、白老町立病院、静内町立病院

### 入院患者数 23 人/年

#### 入院患者疾患内訳

- 1) 若年性特発性関節炎 (全身型・ステロイドパルス療法、マクロファージ活性化症候群合併)
- 2) 若年性皮膚筋炎 (ステロイド離脱困難、大量  $\gamma$ -グロブリン療法、MTX 療法)
- 3) 全身性エリテマトーデス (ステロイド離脱困難、免疫抑制療法)
- 4) シェーグレン症候群 (初発・確定診断)
- 5) 慢性肉芽腫症 (真菌性硬膜炎・脊髄炎、真菌性大腸炎・肺炎、肝膿瘍・臍帯血幹細胞移植、細菌性耳下腺炎・ステノン管閉塞、尿路感染症・腎炎)
- 6) ADA 欠損症 (造血幹細胞を標的とした遺伝子治療施行症例)
- 7) T 細胞機能不全症 (Th1 機能低下、Th2 機能亢進)
- 8) Common Variable Immunodeficiency (心奇形合併、肺出血)

### 研究内容

- ・ ADA 欠損症に対する遺伝子治療臨床研究
- ・ 原発性免疫不全症の病態解析・遺伝子解析・臨床研究
- ・ 自己免疫疾患の病態解析・遺伝子解析・臨床研究

- ・アレルギー性疾患の病態解析・臨床研究
- ・自己炎症性症候群の遺伝子解析
- ・先天性歯牙異常の遺伝子解析

### 競合的外部資金

- ・厚生労働省科学研究費：原発性免疫不全症候群に関する調査研究（有賀 正；分担）
- ・厚生労働省科学研究費：小児慢性特定疾患治療研究事業の登録・管理・評価・情報提供に関する研究（有賀 正；分担）
- ・厚生労働省科学研究費「難治性先天異常症の克服に向けた包括的遺伝子医療体制の確立に関する研究」（有賀 正；分担）
- ・文部科学省研究拠点形成費 21 世紀 COE プログラム（有賀 正；分担）
- ・森永奉仕会研究奨励金（戸板成昭）

### 発表論文

1. Kobayashi I, Kawamura N, Okano M, Sageshima S, Nakayama T, Ohyu J and Kobayashi K: Thrombocytopaenia in juvenile dermatomyositis. *Scand J Rheumatol* 35: 79-80, 2006
2. Dogu F, Ariga T, Ikinciogullari A, Bozdogan G, Aytakin C, Metin A and Babacan E: A case of Wilkott-Aldrich syndrome with de novo mutation at exon 4. *Turkish J Pediatr* 48, 66-68, 2006
3. Shiari R, Kobayashi I, Toita N, Hatano N, Kawamura N, Okano M, Hayashi Y, Kobayashi K and Ariga T: Epitope mapping of anti-a-fodrin autoantibody in juvenile Sjögren's syndrome: Difference in major epitopes between primary and secondary cases. *J Rheumatol* 33:1395-1400, 2006
4. Ariga T: Gene therapy for primary immunodeficiency diseases; recent progress and misgivings. *Curr Pharm Dsign* 12: 557-563, 2006
5. Kobayashi R, Ariga T, Nonoyama S, Kanegane H, Tsuchiya S, Morio T, Yabe H, Nagatoshi Y, Kawa K, Tabuchi K, Tsuchida M, Miyawaki T and Kato S: Outcome in patients with Wiskott Aldrich syndrome following stem cell transplantation: an analysis of 57 patients in Japan. *British J Haematol* 135, 362-366, 2006
6. Nakamura H, Sawamura D, Goto M, Nakamura H, Kida M, Ariga T, Sakiyama Y, Tomizawa K, Mitsui H, Tamaki K and Shimizu H: Analysis of the COL17A1 in non-Herlitz junctional epidermolysis bullosa and amelogenesis imperfecta. *Int J Mol Med* 18: 333-7, 2006
7. Minegishi Y, Saito M, Morio T, Watanabe K, Agematsu K, Tsuchiya S, Takada H, Hara T, Kawamura N, Ariga T, Kaneko H, Kondo N, Tsuge I, Yachie A, Sakiyama Y, Iwata T, Bessho F, Ohishi T, Joh K, Imai K, Kogawa K, Shinohara M, Fujieda M, Wakiguchi H, Pasic S, Abinun M, Ochs HD, Renner ED, Jansson A, Belohradsky BH, Metin A, Shimizu N, Mizutani S, Miyawaki T, Nonoyama S and Karasuyama

- H: Human tyrosine kinase 2 deficiency reveals its requisite roles in multiple cytokine signals involved in innate and acquired immunity. *Immunity* 25, 744-755, 2006
8. Kida M, Sakiyama Y, Matsuda A, Takabayashi S, Ochi H, Sekiguchi H, Minamitake S and Ariga T: A Novel Missense Mutation (p.P52R) in the Amelogenin Gene Causing X-linked Amelogenesis Imperfecta. *J Dent Res* 86: 69-72, 2006
  9. 中島 督、山田雅文、山口晃司、崎山幸雄、八若保孝、有賀 正: Flow cytometry を用いたヒト末梢血単核球内 WASP 分子の構造的・機能的解析に関する研究. *北海道歯学雑誌* 27: 190-200, 2006
  10. 依田弥奈子、吉田佳代、大柳尚彦、大崎雅也、吉村英敦、波多野典一、有賀 正、崎山幸雄: McLeod 症候群を伴った X 連鎖慢性肉芽腫症の 1 例. *日本小児科学会雑誌* 110: 38-41, 2006
  11. 波多野典一、戸板成昭、小林良二、川村信明、有賀 正: 造血幹細胞移植を施行した WAS5 例の検討. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業、原発性免疫不全症候群に関する調査研究、平成 17 年度総括・分担研究報告書: 57-60, 2006
  12. 有賀 正: 新奇の変異をホモで検出した遺伝性 C3 欠損症の一例. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業、原発性免疫不全症候群に関する調査研究、平成 17 年度総括・分担研究報告書: 33-35, 2006
  13. 有賀 正、川村信明: 小児救急に対する保護者の意識調査と保護者教育システム構築の取り組みに関する研究. 平成 16 年度厚生労働科学研究 (子ども家庭総合研究事業) 分担研究報告書 (小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究): 349-352, 2006
  14. Sato D, Shimokawa O, Harada N, Olsen OE, Hou J-W, Muhlbauer W, Blinkenberg E, Okamoto N, Kinoshita A, Matsumoto N, Kondo S, Kishino T, Miwa N, Ariga T, Niikawa N and Yoshiura K: Congenital Arhinia: Molecular-genetic Analysis of Five Patients. *Am J Med Genet* 143A, 546-552, 2007
  15. Toita N, Hatano N, Ono S, Yamada M, Kobayashi R, Kobayashi I, Kawamura N, Okano M, Satoh A, Nakagawa A, Ohshima K, Shindoh M, Takami T, Kobayashi K and Ariga T: Epstein-Barr virus-associated B-cell lymphoma in a patient with DNA ligase IV (LIG4) syndrome. *Am J Med Genet Part A* 143A: 742-745, 2007
  16. Minegishi Y, Saito M, Tsuchiya S, Tsuge I, Takada H, Hara T, Kawamura N, Ariga T, Pasic S, Stojkovic O, Metin A and Karasuyama H: Dominant-negative mutations in the DNA-binding domain of STAT3 cause hyper-IgE syndrome. *Nature* (in press), 2007
  17. 戸板成昭: 全身型若年性特発性関節炎とその類似疾患に関する臨床的研究. *北海道医学雑誌* 82: 61-68, 2007
  18. 有賀 正: 神経疾患に対する遺伝子治療の可能性. *発達障害研究* 29: 36-39, 2007
  19. 有賀 正、川村信明: 免疫疾患の登録・評価・情報提供に関する研究: 医療意見書の解析とその問題点. 厚生労働科学研究費補助金 (子ども家庭総合研究事業) 小児慢性特定疾患治療研究事業の登録・管理・評価・情報提供に関する研究 平成 18 年度総括・分

担研究報告書: 154-160, 2007

20. 小林良二、有賀 正、野々山恵章、金兼弘和、宮脇利男、土屋 滋、矢部晋正、永利義久、河 敬世、田渕 健、土田昌宏、加藤俊一: 本邦における Wiskott-Aldrich 症候群に対する造血幹細胞移植 57 例の解析. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業、原発性免疫不全症候群に関する調査研究、平成 18 年度総括・分担研究報告書: 25-27, 2007
21. 今井耕輔、辻陽一郎、子川和宏、野々山恵章、有賀 正、久間木 悟、土屋 滋、森尾友宏、蒲池吉朗、上松一永、高田英俊、金兼弘和、宮脇利男: 日本における重症複合免疫不全症に対する造血幹細胞移植の後方視的検討と治療ガイドラインの策定. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業、原発性免疫不全症候群に関する調査研究、平成 18 年度総括・分担研究報告書: 29-32, 2007
22. 山田雅文、有賀 正: ある Common variable immunodeficiency 患者で発現低下のみられた Interferon regulatory factor 5 の B 細胞活性化能について. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業、原発性免疫不全症候群に関する調査研究、平成 18 年度総括・分担研究報告書: 45-49, 2007

## 著書

1. 有賀 正: 免疫不全症の検査. 小児臨床検査ガイド 五十嵐 隆・水口 雅編集、文光堂、東京都: 494-499, 2006
2. 川村信明: 補体異常症. 小児内科第 38 巻増刊号「小児疾患の診断治療基準」、「小児内科」「小児外科」編集委員会共編、東京医学社、東京都: 245-246, 2006
3. 有賀 正: 原発性免疫不全症. 今日の治療指針 2007 年度版 私はこう治療している、医学書院、東京都: 975-976, 2007
4. Ariga T: Adenosine deaminase (ADA) deficiency. Chapter 4; Genetic errors associated with purine and pyrimidine metabolism in humans: diagnosis and treatment, Yuji Moriwaki (ed) Research Signpost India: 29-41, 2006
5. 有賀 正: DiGeorge 症候群. 講義録 小児科、佐地 勉・有坂 治・大澤真木子・近藤直実・竹村 司編集、MEDICAL VIEW、東京都 (印刷中)
6. 有賀 正: Wiskott-Aldrich 症候群. 講義録 小児科、佐地 勉・有坂 治・大澤真木子・近藤直実・竹村 司編集、MEDICAL VIEW、東京都 (印刷中)
7. 有賀 正: 無ガンマグロブリン血症. 眼で見る遺伝病とターナー症候群. 新川詔夫編集、メディアート、東京 (印刷中)
8. 有賀 正: 重症複合免疫不全症. 眼で見る遺伝病とターナー症候群、新川詔夫編集、メディアート、東京 (印刷中)

## 学会発表

### 全国学会

1. 戸板成昭、波多野典一、川村信明、有賀 正: 小児 Castleman 病における病態解析. 第 109 回日本小児科学会、金沢市、2006



2. 戸板成昭、波多野典一、山田雅文、川村信明、有賀 正: 慢性肉芽腫症に合併した肝膿瘍における IFN-gamma 療法の有効性. 第 38 回日本小児感染症学会、高知市、2006
3. 貴田みゆき 崎山幸雄 有賀 正: 新奇の DSPP 変異を検出した遺伝性象牙質形成不全症一家系. 第 51 回日本人類遺伝学会、米子市、2006
4. 戸板成昭、波多野典一、山田雅文、川村信明、有賀 正: 慢性肉芽腫症に合併した肝膿瘍における IFN- $\gamma$  療法の有効性. 第 14 回食細胞機能異常症研究会、東京都、2006
5. 中島 督、有賀 正、崎山幸雄: Flow cytometry を用いた末梢血単核球内 WASP 分子の構造的・機能的解析の可能性. 第 36 回日本免疫学会、大阪市、2006
6. 戸板成昭、波多野典一、山田雅文、小林良二、川村信明、小林一郎、岡野素彦、小林邦彦、有賀 正: B-cell lymphoma を合併した DNA Ligase IV syndrome の一例. 第 110 回日本小児科学会、京都市、2007
7. 貴田みゆき、堤 智紀、崎山幸雄、有賀 正: 遺伝子解析にて新奇の DSPP 変異を検出した遺伝性象牙質形成不全症一家系. 第 45 回日本小児歯科学会大会、東京都、2007

#### 国際学会

1. Otsu M, Nakajima S, Kida M, Maeyama Y, Toita N, Hatano N, Kawamura N, Kobayashi R, Tatsuzawa O, Onodera M, Candotti F, Bali P, Hershfield MS, Sakiyama Y and Ariga T: Stem cell gene therapy with no pre-conditioning for the ADA-deficiency patients leads to generalized detoxification and delayed, but steady hematological reconstitution. The 9<sup>th</sup> American Society of Gene Therapy, Baltimore(USA), 2006
2. Kida M, Sakiyama Y, Shirakawa T, Yawaka Y and Ariga T: Clinical features and molecular basis for hereditary disorders related the teeth formation; diagnosis of three families with different diseases. The 11<sup>th</sup> International Congress of Human Genetics, Brisbane(Australia), 2006
3. Otsu, M, Nakajima S, Kida M, Maeyama Y, Toita N, Hatano N, Kawamura N, Kobayashi R, Tatsuzawa O, Onodera M, Candotti F, Bali P, Hershfield MS, Sakiyama Y and Ariga: Steady ongoing hematological and immunological reconstitution achieved in ADA-deficiency patients treated by stem cell gene therapy with no myeloablative conditioning. The Japan Society of Gene Therapy, The 12<sup>th</sup> annual meeting 2006, Tokyo, 2006
4. Ariga T: Hematopoietic stem cell gene therapy for two patients with adenosine deaminase deficiency without myeloablative conditioning; a suggestion for the optimal protocol of HSC gene therapy for ADA. Symposium The Japan Society of Gene Therapy, The 12<sup>th</sup> annual meeting 2006, Tokyo, 2006
5. Ariga T: Gene therapy for primary immunodeficiency diseases. 2<sup>nd</sup> International Symposium on declining birthrate and aging society, Sapporo, 2006

6. Yamada M, Qin H, Tian L, Candotti F, Ariga T, Stewart DM and Nelson DL: Functional analysis of interferon regulatory factor 5 in B cells. XIIth meeting of the European Society for Immunodeficiencies, Budapest(Hungary), 2006
7. Ariga T: International Symposium: Gene Therapy Clinical Trials from Around the Globe, Hematopoietic stem cell gene therapy for two patients with adenosine deaminase (ADA) deficiency without myelopreparative conditioning; a suggestion for the optimal protocol for HSC gene therapy for ADA deficiency. The 10<sup>th</sup> Annual Meeting of American Society of Gene Therapy, Seattle(USA), 2007
8. Kida M, Sakiyama Y, Matsuda A, Takabayashi S, Ochi H, Sekiguchi H, Minamitake S and Ariga T: A novel AMELX Mutation (p.P52R) Causing X-linked AI. International Association of Pediatric Dentistry (IAPD), Hong Kong, 2007

#### 講演・シンポジウムなど

1. Ariga T: Introduction to the symposium of gene therapy for childhood illnesses. 国際シンポジウム「Gene therapy 20 years later: Dose it still hold promise for pediatric disease?」. 第 109 回日本小児科学会総会、金沢市、2006
2. 有賀 正: 原発性免疫不全症に対する遺伝子治療について. 第 288 回北陸小児科地方会、富山市、2006
3. 有賀 正: 免疫不全症とリバージョン. 第 11 回日本適応医学会、シンポジウム「適応の破綻と修復」、札幌市、2007
4. 有賀 正: 遺伝子治療の実際 ; アデノシンデアミナーゼ欠損症の遺伝子治療に関して. シンポジウム : 現代医療における生命倫理、第 37 回医学系大学倫理委員会連絡会議、川崎市、2007

## 血液グループ

### 所属メンバー

- ・小林 良二 (講師、昭和 59 年卒)
- ・金田 眞 (医員、平成 5 年卒)
- ・佐藤 智信 (大学院生、平成 9 年卒)
- ・市川 瑞穂 (大学院生、平成 12 年卒)
- ・鈴木 大介 (大学院生、平成 12 年卒)

外来患者数 1,206 人/年

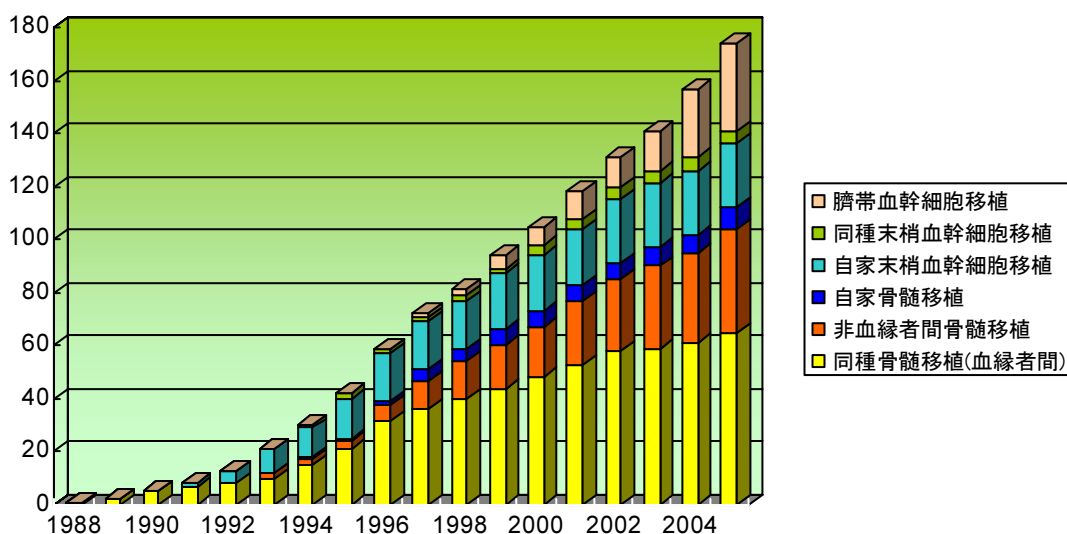
入院患者数 73 人/年

### その他の特色ある診療内容

#### 初発患者の疾患

	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
ALL	6	9	10	9	7	10	9	9
AML	3	0	2	5	4	4	6	3
NHL	2	1	2	2	1	0	1	1
A.A.	2	3	3	3	0	3	2	2
Neuroblastoma	0	4	1	4	5	5	5	4
Wilms tumor	2	2	1	2	1	3	1	2
Rhabdomyosarcoma	1	0	1	1	1	0	0	0
Hepatoblastoma	1	1	1	0	0	1	0	1
PNET	0	0	3	0	0	0	0	1
LCH	2	0	1	0	0	1	0	3
Donor	4	6	5	6	1	2	3	4

移植



	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
Allo BMT(unrelated)	2	3	5	3	4	3	5	4
Allo BMT(related)	4	4	5	5	1	2	4	4
Allo PBSCT	0	2	0	1	0	0	0	0
CBSCT	3	2	3	1	4	11	7	11
Auto BMT	1	0	0	0	1	0	1	1
Auto PBSCT	3	0	0	3	0	0	0	0

研究内容

臨床研究・造血幹細胞移植の合併症と予後

- ・白血病における tumor lysis と予後の関係
- ・小児腫瘍性疾患における抗生剤・抗真菌剤の有効性の検討など

発表論文

1. 岡田忠雄、佐々木文章、本田昌平、小林良二、藤堂 省 : 頸部リンパ節腫大について : 診断・治療アルゴリズムは?. 小児外科 38: 263-265, 2006
2. Iguchi A, Kobayashi R, Sato TZ, Nakajima M, Kaneda M and Ariga T: Successful report of reduced-intensity stem cell transplantation from unrelated umbilical cord blood in a girl with chronic active epstein-barr virus infection. J Pediatr Hematol Oncol 28: 254-256, 2006
3. 小林良二: 小児移植医療: そこが知りたい Q&A 骨髄非破壊的移植とは何ですか?. 小児内科 38: 2098-2102, 2006
4. Kobayashi R, Ariga T, Nonoyama S, Kanegane H, Tsuchiya S, Morio T, Yabe H, Nagatoshi Y, Kawa K, Tabuchi K, Tsuchida M, Miyawaki T and Kato S: Outcome in patients with Wiskott Aldrich syndrome following stem cell transplantation: an

- analysis of 57 patients in Japan. *Br J Hematol* 135: 362-366, 2006
5. Kobayashi R, Yabe H, Hara J, Morimoto A, Tsuchida M, Mugishima H, Ohara A, Tsukimoto I, Kato K, Kigasawa H, Tabuchi K, Nakahata T, Ohga S and Kojima S: Preceding immunosuppressive therapy with antithymocyte globulin and cyclosporine increases the incidence of graft rejection in children with aplastic anemia who underwent allogeneic bone marrow transplantation from HLA-identical siblings. *Br J Hematol* 135: 693-696, 2006
  6. 佐藤智信、小林良二: 同種造血幹細胞移植後の好酸球増多の予後因子としての意義. *血液・腫瘍科* 53: 389-395, 2006
  7. 佐藤智信、鈴木大介、市川瑞穂、中嶋雅秀、金田 眞、井口晶裕、佐々木了、田中伸哉、進藤正信、中川温子、小林良二: 背部で急速に増大した infantile fibrosarcoma が疑われた幼児例. *小児がん* 43: 756-760, 2006
  8. Kobayashi R, Tawa A, Hanada R, Horibe K, Tsuchida M and Tsukimoto I: Extramedullary infiltration at diagnosis and prognosis in children with acute myelogenous leukemia. *Pediatric Blood & Cancer* 48: 393-398, 2007
  9. Sato T, Kobayashi R, Toita N, Kaneda M, Hatano N, Iguchi A, Kawamura N and Ariga T: Stem cell transplantation in primary immunodeficiency disease patients. *Pediatric international*, in press
  10. 小林良二、小島勢二: 小児血液疾患における治療法の進歩ー再生不良性貧血ー. *小児科* 48: 1009-1017, 2007
  11. 小林良二、内田麻子、市川瑞穂、鈴木大介、佐藤智信、中嶋雅秀、三野絵美、鈴木秀久、金田 眞、佐々木了: 顔面発症の Primitive neuroectodermal tumor (PNET) 症例. *小児がん* 44: 50-54, 2007

## 学会発表

### 国際・全国学会

1. Kobayashi R, et al: Less favorable prognosis in Japanese children with stage III T lymphoblastic lymphoma than that with more advanced T lymphoblastic diseases. Second International Symposium on Childhood, Adolescent and Young Adult Non-Hodgkin's Lymphoma, New York, 2006/5/19
2. Kobayashi R: Proposal of new protocol for childhood aplastic anemia: related bone marrow transplantation. 13th annual meeting of the Japan childhood aplastic anemia study group, Nagoya, 2006/6/3
3. 小林良二 他: 小児悪性腫瘍に合併した真菌感染症症例の検討. 第 68 回日本血液学会、福岡市、2006/10/6
4. 小林良二: 造血幹細胞移植と真菌感染症 (シンポジウム). 第 48 回日本小児血液学会、大阪市、2006/11/26
5. 小林良二: 小児再生不良性貧血において cyclosporin および抗胸腺細胞グロブリンによる免疫抑制療法が HLA 一致同胞からの同種骨髄移植に与える影響 (再生不良性貧血委

- 員会セッション). 第 48 回日本小児血液学会、大阪市、2006/11/26
6. 金田 眞 他: 造血幹細胞移植後早期に発症した総胆管結石による閉塞性黄疸の 2 例. 第 48 回日本小児血液学会、大阪市、2006/11/26
  7. 小林良二、有賀 正、野々山恵章、金兼弘和、宮脇利男、土屋 滋、森尾友宏、矢部晋正、永利義久、河 敬世、田渕 健、土田昌宏、加藤俊一: 本邦における Wiskott Aldrich 症候群に対する造血幹細胞移植 57 例の解析. 原発性免疫不全症候群に関する調査研究班. 平成 18 年度第 1 回班会議、東京都、2007/1/19
  8. 小林良二: 小児臍帯血移植 44 例の解析—移植合併症の検討—. 臍帯血を用いる造血幹細胞移植技術の高度化と安全性確保と QOL 向上に関する研究班. 平成 18 年度第 2 回班会議、東京都、2007/1/27
  9. 小林良二、鈴木大介、市川瑞穂、佐藤智信、金田 眞、有賀 正: 造血幹細胞移植後の侵襲性真菌症を合併した症例の検討. 真菌症フォーラム第 8 回学術集会、神戸市、2007/2/10
  10. 佐藤智信、鈴木大介、市川瑞穂、金田 眞、小林良二、有賀 正: 化学療法中にアスペルギルスによる脳膿瘍と侵襲性肺アスペルギルス症を発症した小児急性骨髄性白血病の 1 例. 真菌症フォーラム第 8 回学術集会、神戸市、2007/2/10
  11. 市川瑞穂、鈴木大介、佐藤智信、金田 眞、小林良二、有賀 正: 化学療法中に *Candida Krusei* による真菌血症を併発し voriconazole と micafungin の併用療法が有効であった Ewing 肉腫の 1 例. 真菌症フォーラム第 8 回学術集会、神戸市、2007/2/10
  12. 小林良二、有賀 正、野々山恵章、金兼弘和、土屋 滋、森尾友宏、矢部晋正、永利義久、河 敬世、田渕 健、土田昌宏、宮脇利男、加藤俊一: 日本小児血液学会骨髄移植委員会: 本邦における Wiskott Aldrich 症候群に対する造血幹細胞移植 57 例の解析 (ワークショップ). 第 29 回日本造血細胞移植学会、福岡市、2007/2/17
  13. 佐藤智信、市川瑞穂、鈴木大介、金田 眞、小林良二、有賀 正: 原発性免疫不全症 9 例に対する造血幹細胞移植の検討. 第 29 回日本造血細胞移植学会、福岡市、2007/2/17
  14. 鈴木大介、市川瑞穂、佐藤智信、金田 眞、小林良二、有賀 正: 造血幹細胞移植後に合併した真性包茎の検討. 第 29 回日本造血細胞移植学会、福岡市、2007/2/17

### 地方学会

1. 小林良二: 小児血液悪性腫瘍と真菌感染症. 札幌小児血液セミナー、札幌市、2006/7/21
2. 釜場友佳代 他: 骨髄移植後に脾臓摘出術を施行した若年型骨髄単球性白血病 (JMML) の一例. 第 23 回北海道小児血液研究会、札幌市、2006/11/18
3. 鈴木大介、市川瑞穂、佐藤智信、金田 眞、小林良二: 眼窩および骨盤内の巨大腫瘍で発症した precursor B lymphoblastic lymphoma の 1 例. 北海道小児悪性リンパ腫講演会、札幌市、2007/1/13
4. 市川瑞穂、鈴木大介、佐藤智信、金田 眞、小林良二: 移植後早期にサイトメガロウイルス腸炎に罹患し拒絶に至った慢性肉芽腫症の 1 症例. 第 15 回北海道小児血液セミナー、札幌市、2007/2/2
5. 釜場友佳代、市川瑞穂、鈴木大介、佐藤智信、金田 眞、小林良二、有賀 正、稲本

潤、小関直子、中嶋雅秀、佐竹 明、小西貴幸、岡田忠雄、佐々木文章: 膝原発 ACTH 産生腫瘍の 1 例. 第 32 回北海道小児がん研究会、札幌市、2007/3/2

## 社会貢献

小林良二

学会

日本臨床血液学会 (評議員、幹事)

日本小児血液学会 (評議員)

日本造血細胞移植学会 (評議員)

研究会

小児再生不良性貧血治療研究会 (幹事)

小児白血病研究会 (JACLS) (運営委員)

小児白血病リンパ腫研究会 (JPLSG) (運営委員)

委員会

日本小児血液学会再生不良性貧血委員会委員

小児白血病研究会 (JACLS) リンパ腫小委員会委員長

小児白血病研究会 (JACLS) AML 小委員会委員

その他

北海道臍帯血バンク判定委員会副委員長

北海道血液同好会監事

北海道造血細胞移植研究会幹事

北海道小児血液研究会幹事

北海道小児がん研究会幹事

北海道血友病研究会幹事

日本小児科学会北海道地方会幹事

## 神経グループ

### 所属メンバー

- ・ 斉藤 伸治 (講師、昭和 60 年卒)
- ・ 白石 秀明 (医員、平成 4 年卒)
- ・ 朝比奈直子 (大学院博士課程 4 年、平成 9 年卒)
- ・ 末田慶太郎 (大学院博士課程 1 年、平成 11 年卒)
- ・ 細木 華奈 (大学院修士課程 2 年)
- ・ 香坂 忍 (非常勤、昭和 52 年卒)

**外来患者数** 3,514 人/年 (内新患 179 人)

**入院患者数** 88 人/年

てんかん・けいれん性疾患：47 例 (症候性局在関連てんかん 36、症候性全般てんかん 2、WEST 症候群 2、EIEE 2、特発性局在関連てんかん 4、運動誘発性ジストニア 1)

ミトコンドリア病：8 例 (MELAS 7、Leigh 脳症 1)

神経筋疾患：4 例 (先天性筋症 3、筋炎 2)

代謝・遺伝・変性疾患：7 例 (染色体異常 1、高アンモニア血症 1、ジストニア 1、白質変性症 3、SSPE 1 例)

重症心身障害児：7 例

末梢神経障害：1 例 (ポリオ様麻痺)

広汎性発達障害：3 例

睡眠時無呼吸：3 例

脳奇形：3 例

その他：4 例 (失神 1、外反足 1、反復性髄膜炎 1、原因不明の一過性退行)

### その他の特色ある診療内容

脳磁図解析件数 53 件 (内訳は PE 48 件、SGE 2 件、IGE 1 件、UDE 0 件)

頭蓋内脳波検査：2 例

当科で評価し、てんかん外科手術に至った患者数：8 例

脳波検査総数 (平成 18 年 4 月から平成 19 年 3 月)：外来 639 件、入院 108 件、計 747 件

Prader-Willi 症候群の遺伝学的解析：12 件

Angelman 症候群の遺伝学的解析：12 件

14 番染色体片親性ダイソミーの遺伝学的解析：4 件

治験：レベチラセタム (抗てんかん薬：UCB Pharma)：7 名



## 研究内容

- ・小児神経疾患の分子遺伝学低研究
  - Prader-Willi 症候群、Angelman 症候群の遺伝子診断
  - 14 番染色体片親性ダイソミーの分子遺伝学的研究
  - 精神遅滞の分子遺伝学的研究
- ・小児てんかんの神経生理学的研究
  - 小児てんかんの脳磁図を用いた研究
  - 脳磁図の臨床応用に関する研究
  - てんかん発症機構に関する電気生理学的研究

## 競合的外部資金

- ・科学研究費基盤研究 C：斉藤伸治「アンジェルマン症候群の遺伝学的診断法と遺伝カウンセリングの確立」平成 18 年度研究費：1,800 千円
- ・科学研究費基盤研究 C：須藤章「小児ミトコンドリア病の表現型を決定する遺伝的因子について」平成 18 年度研究費：1,600 千円
- ・科学研究費基盤研究 C：白石秀明「小児てんかん症例における空間フィルター法を用いた脳磁場解析」平成 18 年度研究費：1,700 千円
- ・国立精神・神経センター精神・神経疾患研究委託費（精神遅滞リサーチ・リソースの拡充と病因・病態解明をめざした遺伝学的研究：後藤班）：斉藤伸治（分担研究者）「精神遅滞をきたす遺伝性疾患の分子遺伝学的研究」平成 18 年度研究経費：1,200 千円
- ・財団法人てんかん治療研究振興財団：白石秀明 「てんかん症例における、dynamic statistical parametric mapping (dSPM)を用いた脳磁場解析」平成 18 年度研究助成：1,600 千円

## 発表論文

1. Asahina N, Okamoto T, Sudo A, Kanazawa N, Tsujino S and Saitoh S: An infantile-juvenile form of Alexander disease caused by a R79H mutation in GFAP. *Brain Dev* 28: 131-133, 2006
2. Ichikawa M, Okajima M, Wada T, Tonoki H and Saitoh S: Non-chromosome 15 marker chromosome in a Prader-Willi syndrome patient with uniparental disomy. *Pediatr Int* 48: 97-99, 2006
3. Wada T, Sakakibara M, Fukushima Y and Saitoh S: A novel splicing mutation of the ATRX gene in ATR-X syndrome. *Brain Dev* 28: 322-325, 2006
4. Wada T, Fukushima Y and Saitoh S: A new detection method for ATRX gene mutations using a mismatch-specific endonuclease. *Am J Med Genet A* 140: 1519-1523, 2006
5. Sato K, Iwakoshi M, Shimokawa O, Sakai H, Ohta T, Saitoh S, Miyake N, Niikawa N, Harada N, Saito H, Mizuguchi T and Matsumoto N: Angelman syndrome caused by an identical familial 1,487-kb deletion. *Am J Med Genet A* 143: 98-101,

2007

6. Takano K, Okajima M and Saitoh S: DNA demethylation reactivation of imprinted genes in cell-lines from patients with Prader-Willi syndrome and a mouse model. *Am J Med Genet A* 143A: 1386-1390, 2007
7. 斉藤伸治: 分子遺伝学による発達障害学の展開. *発達障害研究* 29: 1-8, 2007
8. 斉藤伸治: 発達障害学の遺伝学的基盤. *LD 研究* 16: 10-15, 2007
9. Kato M, Saitoh S, Kamei A, Shiraishi H, Ueda Y, Akasaka M, Tohyama J, Akasaka N and Hayasaka K: A Longer Polyalanine Expansion Mutation in the ARX Gene causes Early Infantile Epileptic Encephalopathy With Suppression-Burst Pattern (Ohtahara Syndrome) . *Am J Hum Genet* 81:361-366, 2007
10. Shiraishi H, Egawa K, Asahina N, Nakane S, Udo Y, Satake A, Kohsaka S and Saitoh S: Long-term sequential magnetoencephalographic analyses for patients with atypical benign partial epilepsy in childhood. *International Congress Series* 1300: 689-692, 2007
11. Shiraishi H, Takano K, Shiga T, Okajima M, Sudo A, Asahina N, Kohsaka S, Fukuhara M and Saitoh S: Possible involvement of the tip of temporal lobe in Landau-Kleffner syndrome. *Brain Dev* (in press) , 2007
12. Saitoh S, Hosoki K, Takano K and Tonoki H: Mosaic paternally derived inv dup(15) may partially rescue the Prader-Willi syndrome phenotype with uniparental disomy. *Clin Genet* (in press) , 2007

## 学会発表

### 全国学会

1. 斉藤伸治、江川潔、朝比奈直子、白石秀明: 乳児期に Prader-Willi 症候群と診断された Angelman 症候群の 4 例:DNA メチル化テストの重要性. 第 48 回日本小児神経学会、浦安市、2006/6/1-3
2. 朝比奈直子、志賀哲、江川潔、白石秀明、香坂忍、斉藤伸治: <sup>11</sup>C-flumazenil PET を用いた Angelman 症候群における GABA<sub>A</sub> 受容体機能に関する研究. 第 48 回日本小児神経学会、浦安市、2006/6/1-3
3. 境 直子、境 信哉、真木 誠、中村真理子、須藤 章、斉藤伸治: 脊髄性筋萎縮症 (I 型) 児に対するスイッチ活動の効果—手指機能の改善を目的としたスイッチ活動—. 第 48 回日本小児神経学会、浦安市、2006/6/1-3
4. 白石秀明、江川潔、朝比奈直子、香坂忍、竹内文也、中根進児、斉藤伸治: てんかん症例における律動波に対する脳磁図解析の試み. 第 21 回日本生体磁気学会、東京都、2006/6/1
5. Shiraishi H, Egawa K, Asahina N, Nakane S, Udo Y, Satake A, Kohsaka S and Saitoh S: Longterm sequential magnetoencephalographic analysis for patients with atypical benign partial epilepsy in childhood. 15th International Conference on Biomagnetism, Vancouver (Canada) , 2006/8/20-26

6. 末田慶太郎、朝比奈直子、白石秀明、斉藤伸治、澤村豊: 限局性皮質病変に対し脳磁図所見が質的診断に有効であった症候性局在関連てんかんの 1 小児例. 第 58 回北日本小児科学会、札幌市、2006/9/9
7. Saitoh S, Egawa K, Hosoki K, Asahina N and Shiraishi H: GABAergic dysfunction may modify clinical severity of Angelman syndrome. 56th Annual Meeting of American Society of Human Genetics, New Orleans (USA) , 2006/10/9-13
8. Wada T, Saitoh S and Fukushima Y: Mutation screening of the ATRX gene in Japanese familial mental retardation) . 56th Annual Meeting of American Society of Human Genetics, New Orleans(USA), 2006/10/9-13
9. 斉藤伸治、江川潔、細木華奈、朝比奈直子、白石秀明: Angelman 症候群の重症度を規定する GABA 抑制系機能障害. 第 51 回日本人類遺伝学会、米子市、2006/10/18-20
10. 和田敬仁、斉藤伸治、福嶋義光: 日本の家族性精神遅滞症例における ATRX 遺伝子変異の解析. 第 51 回日本人類遺伝学会、米子市、2006/10/18-20
11. 斉藤伸治、末田慶太郎、朝比奈直子、白石秀明、蒔田芳男、藤枝憲二: West 症候群を合併し著明な発達遅滞を示した Cardio-facio-cutaneous 症候群の一例. 第 29 回日本小児遺伝学会、米子市、2006/10/21
12. 白石秀明、竹内文也、中根進児、末田慶太郎、江川潔、朝比奈直子、香坂忍、齋藤伸治: てんかん症例に対する脳磁場解析の段階的手法ー全てのてんかん症例に対する適応を目指してー. 第 36 回日本臨床神経生理学学会、横浜市、2006/11/29

#### 講演・シンポジウムなど

1. 斉藤伸治: 分子遺伝学による発達障害学の展開 (教育講演). 日本発達障害学会第 40 回研究大会、札幌市、2006/6/24
2. 斉藤伸治: 発達障害の遺伝学的基盤 (教育講演). 日本 LD 学会、札幌市、2006/10/7
3. 白石秀明: てんかんの外科治療戦略 (講演). 千歳・恵庭小児科勉強会、千歳市、2006/4/14
4. 白石秀明: Application of Magnetoencephalography in Epilepsy Patients with Widespread Spike or Slow-wave Activity (JAW 賞受賞講演). 第 40 回日本てんかん学会、金沢市、2006/9/28
5. 白石秀明、竹内文也、中根進児、末田慶太郎、江川潔、朝比奈直子、香坂忍、齋藤伸治: てんかん症例に対する脳磁場解析の段階的手法ー全てのてんかん症例に対する適応を目指してー (講演). 第 30 回日本脳神経 CI 学会、大阪府、2006/2/3

## 腎臓グループ

### 所属メンバー

- ・佐々木 聡 (講師、昭和 61 年卒)
- ・中島 泰志 (医員、平成 5 年卒)
- ・帯金 克行 (医員、平成 7 年卒)

**外来患者数** 1108 人/年

\* 月曜・腎不全外来 (中島)、木曜・腎臓外来 (帯金、伊東)、金曜・腎臓外来 (佐々木)

**入院患者数** 45 人/年

\* 腹膜透析新規導入 3 例 (先天性腎尿路奇形 2 例、先天性ネフローゼ症候群 1 例)

### その他の特色ある診療内容

腎生検診断 49 例

腎臓専門外来 道内 10 関連施設

旭川札幌小児ネフロロジーフォーラム (年 2 回、道内一般小児科医を対象とする小児腎臓病に関する症例検討会、CME 的活動)

### 研究内容

- ・小児難治性腎疾患の治療法確立 (全国多施設研究)
- ・小児腎不全 (保存期管理、腹膜透析)、腎移植治療
- ・蛋白漏出・糸球体硬化進展機序 (腎糸球体上皮 podocyte の障害機転) に関する基礎的研究
- ・腹膜透析合併症 (腹膜硬化症) に関する基礎的研究

### 競合的外部資金

- ・日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究 C) : 腹膜硬化症発症・進展における関与の基礎的解明 (佐々木、代表)
- ・厚生労働省科学研究費補助金 : 「効果的医療技術の確立推進臨床研究事業」 「小児難治性腎疾患に対する薬物療法ガイドライン作成のための多施設共同研究と臨床試験体制整備」 (佐々木、研究協力者)
- ・腹膜機能リサーチ助成研究 (佐々木、代表)

### 発表論文

1. Onodera S, Sasaki S, Ohshima S, Amizuka N, Li M, Udagawa N, Irie K, Nishihira J, Koyama Y, Shiraishi A, Tohyama H and Yasuda K: Transgenic mice overexpressing macrophage migration inhibitory factor (MIF) exhibit high-turnover osteoporosis. J Bone Miner Res 21: 876, 2006

2. 佐々木聡: [小児の治療指針] ループス腎炎. 小児科診療 69S1: 699-702, 2006
3. 佐々木聡: 微小変化型ネフローゼ症候群とポドサイト B7-1 protein. Annual Review 腎臓 2007: 197-204
4. 佐々木聡: 急性腎炎症候群. 小児科診療ガイドライン-最新の治療指針: 252-254, 2007

### 学会発表

1. 佐々木聡、帯金泰志、中島泰志: 頻回再発ステロイド依存性ネフローゼ症候群治療におけるシクロスポリン 1 日 1 回投与法のメリット 6 例の経験, 第 41 回日本小児腎臓病学会、名古屋市、2006
2. 中島泰志、佐々木聡、帯金克行: 巣状糸球体硬化症(FGS)経過中にインスリン抵抗性が見出された 12 歳女児例 糸球体障害機転に関する考察. 第 41 回日本小児腎臓病学会、名古屋、2006
3. Nakashima T, Sasaki S, Obikane K, Nishihira J and Ariga T: Role for Macrophage migration inhibitory factor in peritoneal fibrosis. 11th congress of the International Society for Peritoneal Dialysis, Hong Kong, 2006 (ISPD Travel Grant 2006 受賞)
4. 佐々木聡、帯金克行、中島泰志: 近年発症した紫斑病性腎炎の臨床経過のまとめ: 治療法を中心に. 第 55 回北海道臨床腎臓研究会、札幌市、2006
5. 佐々木聡、帯金克行、中島泰志: シクロスポリン 1 日 1 回投与によるステロイド依存性ネフローゼ症候群再発抑制. 第 16 回北海道小児腎臓病研究会、札幌市、2006
6. Sasaki S, Nakashima T, Obikane K, Nishihira J and Ariga T: Role for macrophage migration inhibitory factor in peritoneal fibrosis. 39th meeting of the American Society of Nephrology, San Diego, 2006

### 社会貢献

- ・日本小児腎臓病学会評議員・学術委員 (佐々木聡)
- ・小児難治性腎疾患治療研究会北海道地区世話人 (佐々木聡)
- ・北海道小児腎臓病研究会幹事 (佐々木聡、中島泰志)
- ・北海道臨床腎臓研究会幹事 (佐々木聡)

## 内分泌・糖尿病グループ

### 所属メンバー

- ・田島 敏広 (講師、昭和 61 年卒)
- ・椿 淳子 (医員、平成 4 年卒)
- ・石津 桂 (大学院生、平成 10 年卒)
- ・城 和歌子 (大学院生、平成 11 年卒)
- ・藤原ふみえ (大学院生、平成 11 年卒)

外来患者数 2234 人/年

入院患者数 35 人/年

### その他の特色ある診療内容

成人成長ホルモン欠損症の治験

SFD 低身長への GH 治療の治験

KP102 の特発性低身長への治験

ジアゾキサイドの治験

先天性甲状腺機能低下症、先天性副腎皮質機能低下スクリーニング患者の精査病院

ターナー女性に対する治療

### 研究内容

- ・先天性副腎疾患の成因解明
- ・成長障害疾患の成因解明と治療
- ・尿細管疾患の成因解明と治療
- ・甲状腺機能低下症、副甲状腺機能低下症の成因解析

### 競合的外部資金

- ・厚生労働省科学研究費補助金 副腎ホルモン産生異常に関する調査研究班, 分担研究者 500 千円
- ・ノボノルディスク成長科学賞 成長ホルモンの体組成、脂質代謝に対する効果 1,000 千円

### 発表論文

1. Fukami M, Kato F, Tajima T, Yokoya S and Ogata T: Transactivation function of an-800 bp evolutionarily conserved sequence at the SHOX 3' region: Implication for the downstream enhancer. Am J Hum Genet 78: 167-170, 2006
2. Okamoto T, Kobayashi T, Naito H and Tajima T: A novel V2 vasopressin receptor mutation with X-linked nephrogenic diabetes insipidus. Clin Pediatr Endocrinol 15:

41-43, 2006

3. Morita R, Takeuchi K, Nakamura A, Tajima T and Kuroda Y: Gitelman's syndrome with mental retardation. Intern Med 45: 211-213, 2006
4. Homma K, Hasegawa T, Nagai T, Adachi M, Horikawa R, Fujiwara I, Tajima T, Takeda R, Fukami M and Ogata T: Urine Steroid Hormone Profile Analysis in Cytochrome P450 Oxidoreductase Deficiency: Implication for the Backdoor Pathway to Dihydrotestosterone. J Clin Endocrinol Metab 91: 2643-2649, 2006
5. Hishinuma A, Fukata S, Nishiyama S, Nishi Y, Oh-Ishi M, Murata Y, Ohyama Y, Matsuura N, Kasai K, Harada S, Kitanaka S, Takamatsu J, Kiwaki K, Ohye H, Uruno T, Tomoda C, Tajima T, Kuma K, Miyauchi A and Ieiri T: Haplotype Analysis Reveals Founder Effects of Thyroglobulin Gene Mutations C1058R and C1977S in Japan. J Clin Endocrinol Metab 91: 3100-3104, 2006
6. Tajima T, Nawate M, Takahashi Y, Mizoguchi Y, Sugihara S, Yoshimoto M, Murakami M, Adachi M, Tachibana K, Mochizuki H and Fujieda K: Molecular analysis of the CLCNKB gene in Japanese patients with classic Bartter syndrome. Endocr J 53: 647-652, 2006
7. Tajima T, Sawamura Y, Isizu K and Tsubaki J: Two patients with xanthogranuloma in the pituitary region. Clin Pediatr Endocrinol 15: 85-91, 2006
8. Tajima T, Yuichi T, Tao K, Yokota I and Takahashi Y: Two patients with Gitelman syndrome. Clin Pediatr Endocrinol 15: 137-142, 2006
9. 田島敏広: 急性副腎不全. 今日の小児治療指針 第 14 版 大関武彦、古川 漸、横田俊一郎 監修、医学書院: 195, 2006

## 学会発表

### 全国学会

1. 藤原ふみえ、椿 淳子、城和歌子、石津 桂、藤枝憲二、田島敏広: 新生児マスキリーニングで発見された中枢性クレチン症の頻度と臨床症状に関する検討. 第 40 回日本小児内分泌学会学術集会、浜松、2006/9/27-29
2. 深見真紀、本間佳子、堀川玲子、田島敏広、長谷川奉延、緒方 勤: POR 異常症 23 例の遺伝子型—表現型解析. 第 40 回日本小児内分泌学会学術集会、浜松、2006/9/27-29
3. 城和歌子、藤原ふみえ、椿 淳子、石津 桂、田島敏広: 当院における小児期発症 2 型糖尿病について. 第 40 回日本小児内分泌学会学術集会、浜松、2006/9/27-29
4. 椿 淳子、城和歌子、藤原ふみえ、石津 桂、田島敏広: 当科における中等症成長ホルモン分泌不全低身長 20 例の治療成績. 第 40 回日本小児内分泌学会学術集会、浜松、2006/9/27-29
5. 石津 桂、椿 淳子、田島敏広、藤枝憲二: 複合型下垂体前葉ホルモン欠損症の成因解析. 第 79 回日本内分泌学会学術総会、神戸
6. 深見真紀、横谷 進、田島敏広、望月 博、緒方 勤: SHOX 遺伝子発現調節配列の同定. 第 79 回日本内分泌学会学術総会、神戸

**国際学会**

1. Fujiwara F, Jyo W, Tsubaki J, Isizu K, Tajima T and Fujieda K: Central congenital hypothyroidism in Sapporo City. The 6th meeting of the International Society for Neonatal Screening, Japan.
2. Jyo W, Fujiwara F, Tsubaki J, Isizu K, Tajima T and Fujieda K: Molecular analysis of congenital hypothyroidism detected by neonatal mass screening. The 6th meeting of the International Society for Neonatal Screening, Japan.
3. Isizu K, Tajima T and Fujieda K: Molecular analysis of combined pituitary hormone deficiency. Third international congress of the GRS and the IGF-1 society, Kobe (Japan), 2006/11/11-15
4. Tajima T, Tsubaki J, Fujiwara F, Isizu K, Ishii N and Fujieda K: A boy with McCune-Albright syndrome and GH excess. Third international congress of the GRS and the IGF-1 society, Kobe (Japan) , 2006/11/11-15

**講演・シンポジウムなど**

1. Tajima T and Fujieda K: A new disease in CAH screening. The 6th meeting of the International Society for Neonatal Screening, Japan, 2006
2. 田島敏広、石津 桂、椿 淳子、藤枝憲二: ヒト複合型下垂体前葉ホルモン欠損症を引き起こす転写因子 HESX1 の異常. 第 79 回日本内分泌学会学術総会、神戸、2006
3. 田島敏広: 副腎疾患のマススクリーニング、今後の展望. 第 40 回日本小児内分泌学会、浜松、2006

**社会貢献**

- ・札幌市マススクリーニングコンサルタント医 (田島敏広)
- ・北海道マススクリーニングコンサルタント医 (田島敏広)



## 循環器グループ

### 所属メンバー

- ・村上 智明 (助手、平成元年卒)
- ・上野 倫彦 (医員、平成 3 年卒)
- ・武田 充人 (医員、平成 5 年卒)
- ・八鍬 聡 (医員、平成 6 年卒)
- ・武井 黄太 (大学院生、平成 11 年卒)

**入院患者数** 203 人/年

入院患児のエコー検査

video 記録された full study 29291 件

外来 月 (武田)、水 (村上)、木 (上野) の週 3 回

### 外来検査数

エコー検査 703 件

ホルター心電図 153 件

### その他の特色ある診療内容

心臓カテーテル検査 135 件

うち intervention 13 件 (9.6%)

バルーン拡大術 大動脈弁狭窄 1 件

大動脈縮窄 (未手術) 1 件

コイル留置術 動脈管開存コイル閉鎖 3 件

Fontan 手術前の体-肺動脈側副血行路コイル閉鎖術 3 件

Fontan 手術後の静脈-静脈側副血行路コイル閉鎖術 3 件

その他 心房中隔裂開術 2 件

### 研究内容

- ・大血管機能
- ・肺高血圧
- ・心機能、心不全治療

### 発表論文

1. Murakami T: Ascending aortic distensibility is impaired before and after surgical “repair” of coarctation: reply. Ann Thorac Surg 81: 2341-2342, 2006
2. Ueno M, Kakinuma Y, Yuhki K, Murakoshi N, Iemitsu M, Miyauchi T and Yamaguchi I: Doxorubicin Induces apoptosis by activation of caspase-3 in cultured

- cardiomyocytes in vitro and rat cardiac ventricles in vivo. *J Pharmacol Sci* 101: 151-158, 2006
3. Haruna Y, Kobori A, Makiyama T, Yoshida H, Akao M, Doi T, Tsuji K, Ono S, Nishio Y, Shimizu W, Inoue T, Murakami T, Tsuboi N, Yamanouchi H, Ushinohama H, Nakamura Y, Yoshinaga M, Horigome H, Aizawa Y, Kita T and Horie M: Genotype-phenotype correlations of KCNJ2 mutations in Japanese patients with Andersen-Tawil syndrome. *Hum Mutat* 28: 208, 2007
  4. 村上智明、上野倫彦、武田充人、八鍬 聡、山澤弘州、村下十志文、今村道明、小西貴幸: 外科治療とカテーテル治療により Fontan 循環に移行しえた多発性末梢性肺動脈狭窄を有する純型肺動脈閉鎖の 1 例. *胸部外科* 59: 157-159, 2006
  5. 村上智明、八鍬 聡、武田充人、上野倫彦、仲西正憲: 大動脈二尖弁を基礎疾患とした大動脈弁閉鎖不全にアンジオテンシン変換酵素阻害薬が著効した一例. *日本小児臨床薬理学会雑誌* 19: 147-148, 2006
  6. 山澤弘州、村上智明、上野倫彦、武田充人、八鍬 聡: シベンズリン内服療法が有効であった小児の肥大型心筋症の 1 例. *日本小児循環器学会雑誌* 22: 648-652, 2006
  7. 山澤弘州、村上智明、枡丸博幸: ドライウェイトの設定に心臓超音波検査による左室拡張末期径を用いた小児血液透析患者の 1 例. *日本小児腎臓病学会雑誌* 19: 92-96, 2006

## 著書

1. 村上智明: 心房中隔欠損症. *小児内科 増刊号 小児疾患の診断治療基準第 3 版* 東京 東京医学社 38: 478-479, 2006

## 学会発表

### 全国学会

1. 武田充人、村上智明、山澤弘州、八鍬 聡、上野倫彦: 大動脈縮窄症における形態的な狭窄部の程度と圧較差との関係について. 第 42 回日本小児循環器学会学術集会、名古屋、2006/7/13
2. 村上智明、武田充人、上野倫彦、八鍬 聡、山澤弘州: 大動脈縮窄症・大動脈離断症術後圧反射の亢進・どのくらい影響があるのか?-. 第 42 回日本小児循環器学会学術集会、名古屋、2006/7/13
3. 古川卓朗、武田充人、村上智明:  $\beta$  遮断薬が著効した拡張型心筋症の 1 乳児例. 第 42 回日本小児循環器学会学術集会、名古屋、2006/7/13
4. 上野倫彦、山澤弘州、八鍬 聡、武田充人、村上智明: 乳児期に片側の肺血管抵抗の上昇や肺血管床の低下をきたした先天性心疾患の検討. 第 42 回日本小児循環器学会学術集会、名古屋、2006/7/14
5. 村上智明、上野倫彦、武田充人、八鍬 聡、武井黄太: 大動脈縮窄症術後の左室肥大・左室形態. 第 54 回日本心臓病学会、鹿児島、2006/9/25

**講演・シンポジウムなど**

1. 中川雅生、佐地 勉、松裏裕行、三谷義英、村上智明、安田東始哲: 酢酸フレカイニドの報告書作成進捗状況. 第 33 回日本小児臨床薬理学会 シンポジウム、横浜、2006/11/30
2. 村上智明: 小児科、循環器講義. 第 6 回北海道発達循環フォーラム、札幌、2006/10/7
3. 村上智明: 冠循環の知識 拡張性病変(川崎病). 第 2 回 FFR ワークショップ、箱根、2007/2/24

## 新生児グループ

### 所属メンバー

- ・長 和俊 (助教授、昭和 60 年卒)
- ・岡嶋 覚 (医員、平成 2 年卒)
- ・上田 恵子 (医員、平成 8 年卒) (～平成 19 年 1 月)
- ・小西 祥平 (医員、平成 11 年卒)
- ・塩野 展子 (医員、平成 11 年卒)

### 外来患者数

小児科新生児外来 667 人/年  
産科外来 (1 ヶ月健診) 379 人/年

### 体重区分別新生児数

体重区分	新生児数	死亡数
～1,000g	6	1
1,000～1,500g	14	2
1,500～2,000g	24	2
2,000～2,500g	74	3
2,500～4,000g	212	1
4,000g～	0	0
計	330	9

### 多胎症例数

双胎 21 組 42 例  
品胎 0 組 0 例

### 研究内容

- ・新生児慢性肺疾患の病態解析
- ・低出生体重児への環境ホルモン暴露評価
- ・先天性肺胞蛋白症の病因解析

### 競合的外部資金

- ・科学研究費補助金 基盤 C 「ラットを用いたコルチコステロイド投与が新生児慢性肺疾患に及ぼす影響の解明」 1,200 千円

### 発表論文

1. 長 和俊: 新生児遷延性肺高血圧症 (PPHN). 脇口 宏, 友田隆士編 今日の小児治療 指針第 14 版, 医学書院, 東京: 127-128, 2006

2. 長 和俊: 羊水過多・過少. 新生児医療連絡会編 NICU マニュアル第 4 版, 金原出版, 東京: 77-78, 2007
3. 長 和俊: 未熟児動脈管開存症. *Neonatal Care* 19 (5): 412-415, 2006
4. 長 和俊: 正常サインと異常サイン. *Neonatal Care* 19: 1145-1149, 2006
5. 長 和俊: 呼吸の評価. *周産期医学* 37 (1): 35-38, 2007
6. 長 和俊: 出生時の臍帯血採取. *Neonatal Care* 200 年春期増刊: 54-59, 2007
7. Matsuda T, Okuyama K, Cho K, Okajima S, Kobayashi Y, Hoshi and Kobayashi K: Cerebral hemodynamics during the induction of antenatal periventricular leukomalacia by hemorrhagic hypotension in chronically instrumented fetal sheep. *Am J Obstet Gynecol* 194: 1057-1063, 2006
8. Morikawa M, Yamada T, Tsuruga N, Cho K, Yamada H, Sakuragi N and Minakami H: Coagulation-fibrinolysis is more enhanced in twin than in singleton pregnancies. *J Perinat Med* 34: 392-397, 2006
9. Okada T, Sasaki F, Cho K, Itoh T, Ota S and Todo S: Histological differentiation between prenatally diagnosed choledochal cyst and type I cystic biliary atresia using liver biopsy specimens. *Eur J Pediatr Surg* 16: 28-33, 2006

## 学会発表

### 全国学会

1. 長 和俊: 出生時に RDS ありと診断されると III 型 CLD は否定されるか. 第 19 回新生児慢性肺疾患研究会、那覇、2006/11/11
2. 塩野展子: 臍帯潰瘍を合併し著明な胎児貧血を呈した先天性空腸閉鎖症の 1 例. 第 42 回日本周産期・新生児医学会、宮崎、2006/7/9-11

### 講演・シンポジウムなど

1. 長 和俊: 二卵性一絨毛膜性双胎の抱える問題 (教育講演). 第 16 回日本産婦人科・新生児血液学会、甲府、2006/6/9-10
2. 長 和俊: 舌小帯切除を含めた過剰医療の子育てに及ぼす影響. 第 9 回 SIDS 国際会議 市民公開講座、横浜市、2006/6/3
3. 長 和俊: 新生児の呼吸障害. 第 10 回未熟児新生児学会教育セミナー、ルスツ、2006/8/24-26

## 感染グループ

### 所属メンバー

- ・石黒 信久 (助手、北大病院感染制御部、昭和 59 年卒)
- ・遠藤 理香 (医員、平成 8 年卒)

**外来患者数** 60 名 (HBV, HCV キャリアーのフォローが中心)

### その他の特色ある診療内容

石黒は北大病院の感染制御部副部長として院内感染対策の業務に当たると同時に、各診療科からの感染症の診断と治療の相談を引き受けている。

### 研究内容

- ・ヒトメタニューモウイルス及びヒトボカウイルスの臨床的・基礎的研究

### 競合的外部資金

- ・科学研究費補助金 基盤研究 (C)「ヒト・メタニューモウイルス表面膜蛋白 (F、G、SH) の機能解析と臨床への応用」(研究代表者：石黒信久)
- ・科学研究費補助金 若手スタートアップ「新しく発見された呼吸器感染ウイルス(ヒト・ボカウイルス)に関する臨床的研究」(研究代表者：遠藤理香)

### 発表論文

1. Ishiguro N, Ebihara T, Endo R, Ma X, Kawai E, Ishiko H and Kikuta H: Detection of antibodies against human metapneumovirus by Western blot using recombinant nucleocapsid and matrix proteins. *J Med Virol* 78: 1091-1095, 2006
2. Ma X, Endo R, Ishiguro N, Ebihara T, Ishiko H, Ariga T and Kikuta H: Detection of human bocavirus in Japanese children with lower respiratory tract infections. *J Clin Microbiol* 44, 1132-1134, 2006
3. Endo R, Ebihara T, Ishiguro N, Kikuta H and Kobayashi K: A single base mutation in an internal ribosome entry site of Epstein-Barr virus nuclear antigen 1 mRNA and Epstein-Barr virus-associated lymphoproliferative diseases. *Res Adv in Microbiology* 6: 11-21, 2006

### 学会発表

#### 全国学会

1. 遠藤理香: 多剤耐性緑膿菌による感染症に静注用コリスチンが有効であった嚢胞性線維症の 1 例. 第 109 回日本小児科学会学術集会、金沢市、2006/4/21-23
2. 石黒信久: ヒト血清中におけるヒトメタニューモウイルスの N 及び M 蛋白に対する抗体の検出. 第 38 回日本小児感染症学会総会、高知市、2006/11/10-11

3. 遠藤理香: 日本におけるヒトボカウイルス (Human Bocavirus) 感染症の臨床像と血清抗体保有率についての研究 (優秀演題に選出). 第 38 回日本小児感染症学会総会、高知市、2006/11/10-11

**講演・シンポジウムなど**

1. 日本人小児におけるヒトボカウイルス (Human Bocavirus) の検出率と臨床像の解析.  
第 14 回北海道小児感染症研究会、2006/10/8

## 遺伝グループ

### 所属メンバー

- ・外木 秀文 (天使病院小児科、昭和 57 年卒)
- ・佐藤 大介 (北大大学院 新日鐵病院小児科、平成 10 年卒)
- ・中本 哲 (北大大学院 横浜市立大学、平成 11 年卒)

外来患者数 90 人/年

入院患者数 0 人/年

### その他の特色ある診療内容

先天奇形症候群・遺伝性疾患の診断・診療

### 研究内容

- ・ Axenfeld-Rieger 奇形の遺伝型と表現型の分類
- ・ CGH 法、FISH 法、染色体検査法などによるゲノム診断の臨床応用

### 競合的外部資金

- ・ 平成 19 年度札幌市医師会医学研究活動補助金：Axenfeld-Rieger 奇形の遺伝的原因に関する研究

### 発表論文

1. Miyake N, Shimokawa O, Harada N, Sosonkina N, Okubo A, Kawara H, Okamoto N, Ohashi H, Kurosawa K, Naritomi K, Kawame T, Nagai T, Shotelersuk V, Hou JW, Fukushima Y, Kondoh Y, Matsumoto T, Shinoki T, Kato M, Tonoki H, Nomura M, Yoshiura KI, Kishino T, Ohta T, Niikawa N and Matsumoto N: No detectable genomic aberrations by BAC array CGH in Kabuki make-up syndrome patients. *Am J Med Genet A* 140A: 291-293, 2006
2. Ichikawa M, Okajima M, Wada T, Gokan Y, Shimakage H, Tonoki H and Saitoh S: Non-chromosome 15 marker chromosome in a Prader-Willi syndrome patient with uniparental disomy. *Pediatr Internatl* 48: 1-2, 2006
3. Obikane K, Nakashima T, Watari Y, Morita K, Cho K, Tonoki H, Nagata M and Sasaki S: Renal failure due to tubulointerstitial nephropathy in an infant with cranioectodermal dysplasia. *Pediatric Nephrol* 21: 554-576, 2006
4. Sato D, Kawara H, Shimokawa O, Harada N, Tonoki H, Takahashi N, Imai Y, Kimura H, Matsumoto N, Ariga T, Niikawa N and Yoshiura K: A Down syndrome girl with partial trisomy for 21 pter-q22.13: A clue to narrow the Down syndrome critical region. *Am J Med Genet* in press, 2007



**学会発表****全国学会**

1. 新保輝味、工藤夏美、外木秀文、藤本征一郎、木村宏美、今井優美: 天使病院における最近 2 年間の染色体検査結果について. 第 51 回日本人類遺伝学会、米子市、2006/10/17-20
2. 外木秀文、川良洋城、原田直樹、小崎里華、松本直通: Axenfeld 奇形をもつ女児の 6 番染色体短腕部分欠失の解析 第 51 回日本人類遺伝学会、米子市、2006/10/17-20
3. 外木秀文、佐藤大介、霜川修、川良洋城、原田直樹、高橋伸浩、木村宏美、新保輝味、工藤夏美、松本直通、新川詔夫: まれな染色体異常 46, XX, idic (21) (q22.13) ins (13;21) (q12.1;q22.13q22.3) をもつ Down 症候群症例の分子細胞遺伝子学的検討. 第 29 回日本小児遺伝学会、米子市、2006/10/21

## 代謝消化器病グループ

### 所属メンバー

- ・窪田 満 (非常勤講師、昭和 61 年卒)
- ・竹田 優子 (大学院生、平成 8 年卒) (平成 19 年 3 月～)
- ・木田 和宏 (大学院生、平成 10 年卒)

**外来患者数** 905 人/年 (北大外来 319 人、手稲溪仁会代謝外来 586 人)

**入院患者数** 数人/年

### その他の特色ある診療内容

#### 【先天代謝異常症】

リソソーム病 (ムコ多糖症、Fabry 病 Tay-Sachs 病) のスクリーニングと診断と治療  
メンケス病および Occipital horn 症候群の治療

尿素サイクル異常症 (OTCD、古典的シトルリン血症) の治療

有機酸代謝異常症 (メチルマロン酸血症、プロピオン酸血症) のスクリーニングと治療

脂肪酸代謝異常症 (グルタル酸尿症 II 型、CPT II 欠損症) のスクリーニングと診断と治療

NICCD (neonatal intrahepatic cholestasis caused by citrin deficiency) の診断と治療指針  
の作成

フェニルケトン尿症、糖原病の治療

#### 【肝臓疾患】

先天性肝内胆汁うっ滞 (アラジール症候群、バイラー病) の治療

血管奇形による門脈血流低下の画像診断と治療

脂肪肝 (特に境界型糖尿病に併発するもの) の治療

#### 【消化管疾患】

炎症性腸疾患 (潰瘍性大腸炎、クローン病) の治療 [白血球除去療法を含む]

難治性下痢症、遷延性下痢症の治療とコンサルテーション

過敏性腸症候群、習慣性便秘症、周期性嘔吐症の診断と治療

### 研究内容

先天代謝異常症の診断と治療

- ・アミノ酸代謝異常症・有機酸代謝異常症 (タンデムマススクリーニングの導入)
- ・リソソーム病、特にムコ多糖症のマススクリーニング (木田 和宏先生)
- ・酵素補充療法の導入 (ムコ多糖症、Fabry 病など)
- ・尿素サイクル異常症の院内製剤による治療、超希少疾患治療薬の認可システムの研究
- ・銅代謝異常症 (ウィルソン氏病、メンケス病) の早期診断、早期治療  
消化器肝臓疾患の診断と治療、研究
- ・過敏性腸症候群のメカニズムに関する研究 (竹田 優子先生)

- ・難治性下痢症、嘔吐症とアレルギー性胃腸症に関する病理組織学的研究
- ・先天性肝内胆汁うっ滞（アラジール症候群、バイラー病）の治療と脂肪肝に関する研究

### 競合的外部資金

- ・先天代謝異常症の診断ネットワークを介した長期予後追跡システムの構築（松原班）  
（研究協力者；窪田 満）
- ・小児超希少疾患治療薬の開発（遠藤班）（研究協力者；窪田 満）

### 発表論文

1. 窪田 満: 吸収不全症候群. 今日の小児治療指針 第 14 版: 339-340, 2006
2. 窪田 満: 低血糖鑑別のための負荷試験. 小児内科 38 (8): 1321-1325, 2006
3. 窪田 満: 子供で欠乏しやすいミネラル、ビタミンは?. 子供の生活習慣病対策: 127-138, 2006
4. 窪田 満: 日常の診療で見出される先天代謝異常症. 小児科診療 69 (11): 1568-1573, 2006
5. 窪田 満: 口腔内疾患、患唾液腺疾患. 小児疾患の診断治療基準 第 3 版: 374-375, 2006
6. 窪田 満、小杉山清隆: 胃・十二指腸粘膜障害のメカニズム. 小児内科 39 (3): 459-463, 2007

### 学会発表

#### 国際学会

1. Kubota M: Zinc therapy to presymptomatic Wilson's disease detected by urinary ceruloplasmin mass screening. The 6th Meeting of the International Society for Neonatal Screening, Awaji, 2006

#### 地方学会

1. 木田 和宏 他: 遅発型プロピオン酸血症の一例. 日本小児科学会北海道地方会第 267 例会、札幌市、2006
2. 窪田 満: 習慣性便秘症と fecal soiling の診断と治療. 第 35 回西区手稲区小児科医会、札幌市、2006

#### 講演・シンポジウムなど

1. 窪田 満: 新生児科医が知っておくべき先天代謝異常症. 第 19 回北海道新生児懇話会（特別講演）、札幌市、2006
2. 窪田 満: 症例検討. 第 2 回日本先天代謝異常学会セミナー（講師）、東京都、2006
3. 窪田 満: 日常の診療で見出される先天代謝異常症. 第 27 回道北小児科懇話会（特別講演）、旭川市、2006

### 社会貢献

- ・ 北海道および札幌市より先天代謝異常等検査業務相談医を委嘱（窪田 満）

## 市立札幌病院

### 所属メンバー

#### 小児科

- ・福島 直樹 (昭和 46 卒)
- ・南雲 淳 (平成元年卒)
- ・須藤 章 (平成 3 年卒)
- ・古川 卓朗 (平成 12 年卒)
- ・中島 翠 (平成 16 年卒) (独自採用)

#### 新生児科

- ・服部 司 (昭和 49 年卒)
- ・中島 健夫 (昭和 53 年卒)
- ・内田 雅也 (平成 5 年卒)
- ・野呂 歩 (平成 8 年卒)
- ・渡辺麻衣子 (平成 12 年卒)

### 卒後臨床研修医

2 名

### 専門外来

- ・心臓外来

病院全体の医師数	185 人 (レジデント 48 人)
小児科医師数	5 人 (うち非常勤 人)
	(新生児科 5 人)

病院全体の病床数	810 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	51 床
NICU 病床数	6 床
新生児病床数(NICU を除く)	32 床

NICU としての認定 あり なし

平均小児科外来数	100 人/日
平均時間外外来数	5~10 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	1,121 人/年
	(新生児科 320 人/年)
年間のべ入院患者数	10,089 人/年 (入院患者数×入院日数)
	(新生児科 9,600 人/年)

年間時間外入院患者数 300 人/年

年間分娩数	600 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	250 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	90 人/年
年間呼吸管理患者数	80 人/年

**発表論文の詳細**

1. 須藤 章: 特異な脳炎・脳症後てんかんの一群. 波 30: 92-93, 2006
2. Asahina N, Okamoto T, Sudo A, Kanazawa N, Tsujino S and Saitoh S: An infantile-juvenile form of Alexander disease caused by a R79H mutation in GFAP. Brain Dev 28: 131-133, 2006
3. Yamasoba T, Goto Y, Komaki H, Mimaki M, Sudo A and Suzuki M: Cochlear damage due to germanium-induced mitochondrial dysfunction in guinea pigs. Neuroscience letter 395: 18-22, 2006
4. Takanashi J, Oba H, Barkovich AJ, Tada H, Tanabe Y, Yamanouchi H, Fujimoto S, Kato M, Kawatani M, Sudo A, Ozawa H, Okanishi T, Ishitobi M, Maegaki Y and Koyasu Y: Diffusion MRI abnormalities after prolonged febrile seizures with encephalopathy. Neurology 66: 1304-1309: 2006
5. 須藤 章、佐竹 明、梶井直文、江川 潔、朝比奈直子、白石秀明、石川信義、斉藤伸治: Panayiotopoulos 症候群の長期経過と治療効果. てんかんをめぐって XXV: 26-35
6. 鴨志田久子、福島直樹、原田千洋: 歩行不能を主訴に受診した特発性末梢性顔面神経麻痺の 1 例. 市立札幌病院医誌 66: 11-13, 2006

**学会発表****全国学会**

1. 李 光鐘、鎌形正一郎、広部誠一、東間未来、吉田史子、猿渡由美子、林 夙、鈴木孝明、古川卓朗、福島直樹: 大動脈つり上げ術が有効であった右肺低形成を有する先天性気管狭窄・PA sling の一症例. 第 43 回日本小児外科学会総会、秋田市、2006/6/7-9
2. 古川卓朗、武田充人、村上智明:  $\beta$  遮断薬が著効した拡張型心筋症の 1 乳児例. 第 42 回日本小児循環器学会総会、名古屋市、2006/7/13-15

**地方学会**

1. 福島直樹: IGF-1, IGFBP-3 の血中濃度からみた GH 投与量について. 第 27 回北海道小児内分泌研究会、札幌市、2006/1/28
2. 藤原ふみえ、古川卓朗、須藤 章、福島直樹、富樫武弘: カルバマゼピン頓服が著効した入浴てんかんの 6 歳男児例. 第 60 回北海道てんかん懇話会、札幌市、2006/2/25
3. 楠堂晋一、須藤 章、古川卓朗、藤原ふみえ、福島直樹、富樫武弘、瀧上真良、相馬 勉、吉村 理、山川宗位、宮崎知保子: 耳性頭蓋内合併症 (小脳膿瘍) の一例. 日本小児科学会北海道地方会第 265 回例会、札幌市、2006/2/27
4. 多田朋弥、荒木美穂、藤原ふみえ、古川卓朗、須藤 章、福島直樹、富樫武弘: 高サイトカイン血症の存在が疑われたマイコプラズマ肺炎の一例. 日本小児科学会北海道地方

会第 265 回例会、札幌市、2006/2/27

5. 古川卓朗、藤原ふみえ、須藤 章、福島直樹、富樫武弘、宮崎知保子、高梨潤一: 亜急性に発症し、MRI 拡散協調画像で広範な病変を認め、精神発達障害を残したインフルエンザ脳症の一例. 第 8 回日本小児神経学会北海道地方会、札幌市、2006/3/11
6. 古川卓朗、須藤 章、南雲 淳、福島直樹、武田充人: 解離性肺動脈瘤にて突然死した肺高血圧 (主要体肺側副血行路 (MAPCA) に対する unifocalization (UF) 術後遠隔期) の一例. 日本小児科学会北海道地方会第 266 回例会、旭川市、2006/7/2
7. 杉山未奈子、須藤 章、中島 翠、古川卓朗、南雲 淳、福島直樹: 情動の変化に伴い変動する片側性舞蹈病を認めたリウマチ熱の一例. 第 58 回北日本小児科学会、札幌市、2006/9/9
8. 大橋 伯、中川栄二、須貝研司、佐々木征行、小林 巖、須藤 章: 片側巨脳症児に対する半球離断術後の視覚機能からみた発達評価について. 第 58 回北日本小児科学会、札幌市、2006/9/9
9. 須藤 章、古川卓朗、南雲 淳、中島健夫、福島直樹、大橋 伯、中川栄二、須貝研司、佐々木征行、仲間秀幸、大槻泰介: 左右差軽微な片側巨脳症による大田原症候群に対し、半球離断を行った 3 ヶ月児例. 第 61 回北海道てんかん懇話会、札幌市、2006/10/28
10. 福島直樹、古川卓朗、須藤 章、南雲 淳: 混合型インスリンアナログ製剤の有用性について. 第 40 回日本糖尿病学会北海道地方会、札幌市、2006/10/29
11. 木田和宏、窪田 満、斉藤伸治、須藤 章、岡嶋真紀: 遅発性プロピオン血症の一例. 日本小児科学会北海道地方会第 267 回例会、札幌市、2006/11/26



## 札幌厚生病院

### 所属メンバー

- ・ 今野武津子 (昭和 47 年卒)
- ・ 越 和子 (昭和 50 年卒) (平成 18 年 10 月～)
- ・ 高橋美智子 (昭和 58 年卒)
- ・ 古田 博文 (昭和 61 年卒) (～平成 18 年 9 月)
- ・ 佐藤 孝平 (平成 3 年卒)

### 卒後臨床研修医

6 名

### 専門外来

- ・ 内分泌 (藤枝憲二 ×1/月)
- ・ 神経 (斉藤伸治 ×1/2 ヶ月)
- ・ 腎 (佐々木聡 ×1/月)
- ・ 心臓 (上野倫彦 ×1/月)

---

病院全体の医師数	110 人
小児科医師数	4 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	494 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	23 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	1 床
NICU としての認定	あり (なし)
平均小児科外来数	61 人/日
平均時間外外来数	3 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	922 人/年
年間のべ入院患者数	7,062 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	260 人/年
年間分娩数	151 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	16 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

**発表論文の詳細**

1. Konno M, Kobayashi A, Tomomasa T, et al: Guidelines for the treatment of Crohn's disease in children. *Pediatr Int* 48: 349-352, 2006
2. 今野武津子: 急性胃腸炎. 今日の小児治療指針 第 14 版: 336-337, 2006
3. 今野武津子: 小児の治療指針「潰瘍性大腸炎、Crohn 病」. *小児科診療* 69 (Suppl): 654-657, 2006
4. 今野武津子: 小児疾患の診断治療基準「クローン病」. *小児内科* 38 (Suppl): 384-385, 2006
5. 今野武津子、高橋美智子、佐藤孝平 他: *Helicobacter pylori* の伝播は母子感染が有意に多い. *札幌医通信 増刊* 239: 47-48, 2006
6. Kato S, Nakajima S, Nishino Y, Ozawa K, Minoura T, Konno M, et al: Association between gastric atrophy and *Helicobacter pylori* infection in Japanese children: A retrospective multicenter study. *Dig Dis Sci* 51: 99-104, 2006
7. 佐藤孝平、今野武津子: クローン病と成長障害. *小児科臨床* 60: 195-202, 2007

**学会発表****全国学会**

1. 今野武津子: 札幌厚生病院における LCAP 施行潰瘍性胃腸炎 (型式 EI) の 3 症例. 第 2 回小児 LCAP 報告会、東京都、2006/2
2. 今野武津子、佐藤孝平、高橋美智子: サクラマス生食後に家族内に発生した広節裂頭条虫症. 第 2 回日本小児消化器感染症研究会、東京都、2006/2
3. 今野武津子: Upshaw-Schulman 症候群とともに 20 年—その治療と増悪因子について—. 第 4 回 VWF/肝疾患研究会、奈良市、2006/10
4. 加藤誠司、今野武津子、田中亮二郎 他: ワークショップ 23 造血と転写因子「高感度 ADAMTS13 活性 ELISA で測定した同活性血中半減期」. 第 48 回臨床血液学会、福岡市、2006/10
5. 今野武津子、高橋美智子、佐藤孝平、狩野吉康 他: Peginterferon 療法によって TTP の憎悪をきたした Upshaw-Schulman 症候群の 1 例. 第 48 回日本小児血液学会、大阪市、2006/11
6. 今野武津子、佐藤孝平、高橋美智子: クローン病における成長曲線の有用性. 第 7 回日本小児 IBD 研究会、東京都、2007/3

**地方学会**

1. 今野武津子、高橋美智子、佐藤孝平: *Helicobacter pylori* の伝播は母子感染が優位である. 第 31 回札幌市医師会医学会、札幌市、2006/2

2. 今野武津子、高橋美智子、佐藤孝平: 炎症性腸疾患 (IBD) 患児の follow-up における便中カルプロテクチンの有用性. 第 32 回札幌市医師会医学会、札幌市、2007/2

## KKR 札幌医療センター

### 所属メンバー

- ・高橋 豊 (小児センター長、昭和 50 年卒)
- ・鹿野 高明 (小児科部長、昭和 52 年卒)
- ・縄手 満 (平成 10 年卒)
- ・伊東 広臨 (平成 11 年卒)
- ・松波由貴子 (平成 17 年卒)

### 卒後臨床研修医

2 名 (3 カ月研修 1 名、6 カ月研修 1 名)

### 専門外来

- ・神経外来 (朝比奈直子 ×2/月)
- ・心臓外来 (八鍬 聡 ×2/月)
- ・喘息アレルギー外来 (高橋)
- ・内分泌外来 (高橋)
- ・血液外来 (鹿野)
- ・心身症外来 (縄手)

病院全体の医師数	63 人
小児科医師数	5 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	450 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	34 床
NICU 病床数	2 床
新生児病床数(NICU を除く)	0 床
NICU としての認定	あり (なし)
平均小児科外来数	88.0 人/日
平均時間外外来数	2.9 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	2,192 人/年
年間のべ入院患者数	13,544 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	633 人/年
年間分娩数	461 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	59 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	3 人/年
年間呼吸管理患者数	10 人/年

**発表論文の詳細**

1. 我妻義則、梅津愛子、木村健修、島野由美、高橋 豊 他: 動物アレルギーについて、2つの調査から. 日本小児アレルギー学会誌 20 (1) : 92-99, 2006
2. 高橋 豊、羽田美保、米川元晴、田端祐一、鹿野高明、遠藤理香、石黒信久、菊田英明: 当科入院症例における human metapneumovirus および respiratory syncytial virus 感染症の臨床像の比較. 札幌市医師会医学雑誌 増刊 239: 95, 2006
3. 田端祐一、羽田美保、米川元晴、鹿野高明、高橋 豊、岡 亨治、渡部寿一、田島敏広: 夜尿、易疲労、頭痛を契機に診断した Gitelman 症候群の 1 例. KKR 札幌医療センター医学雑誌 3 (1) : 63-66, 2006
4. 太田 惣, 高橋 豊: 小児の尿ケトン体と尿細管上皮細胞の出現の関連. KKR 札幌医療センター医学雑誌 3 (1): 44-47, 2006
5. 鹿野高明、大倉有加、中村明枝、川原朋乃、藤原ふみえ、高橋 豊: 耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) と非 MRSA によるブドウ球菌熱傷様皮膚症候群の臨床像の比較. KKR 札幌医療センター医学雑誌 3 (1) : 10-13, 2006
6. 高橋 豊、羽田美保、米川元晴、田端祐一、鹿野高明: RS ウイルス感染症により入院した児のその後の喘鳴性疾患罹患とその危険因子に関する検討. 日本小児科学会雑誌 110 (5) : 663-667, 2006
7. 高橋 豊、羽田美保、米川元晴、田端祐一、鹿野高明、海老原敬、遠藤理香、石黒信久、菊田英明: 小児 human metapneumovirus および respiratory syncytial virus 感染症の臨床像の比較. 小児科 47 (6) : 1115-1120, 2006
8. 鹿野高明、羽田美保、田端祐一、米川元晴、高橋 豊: 当院におけるアレルギー性紫斑病入院例の臨床的検討. 臨床小児医学 54 (3, 4) : 71-74, 2006
9. 鹿野高明、羽田美保、田端祐一、米川元晴、高橋 豊、有岡秀樹、山中政子: 薬剤リンパ球刺激試験が診断の決めてになった IgE 陰性ミルク誘発胃腸症の一例. 臨床小児医学 54 (5, 6) : 113-115, 2006
10. 高橋 豊: ウイルス性気道感染症における病態解析とその後の喘息発症予測因子解明に関する研究. 環境保全機構委託事業「乳幼児を対象とした診査・介入による事業展開の重点化に関する研究報告書」平成 17 年度 森川昭廣 編: 28-39, 2006
11. 高橋 豊: 私は思う: ヒト・メタニューモウイルスと気管支喘息との関わり. アレルギーの臨床 26 (10) : 808-809, 2006
12. 鹿野高明、羽田美保、田端祐一、米川元晴、高橋 豊: 紫斑の出現が遅れるアレルギー性紫斑病に対する診断の手がかり. 小児科臨床 60 (1) : 92-96, 2007
13. 高橋 豊、渡辺 徹、森 俊彦、宇加江進、我妻義則、平野至規、有賀 正、堤 裕幸、崎山幸雄: 北海道の小児喘息患者とその保護者の QOL に関する 2004 年アンケート調査-2001 年の調査結果との比較-. 喘息 20 (1) : 77-84, 2007

## 学会発表

### 全国学会

1. 高橋 豊、羽田美保、米川元晴、田端祐一、鹿野高明、遠藤理香、石黒信久：小児喘鳴性疾患における human metapneumovirus の関与についての検討. 第 18 回日本アレルギー学会春期臨床大会、東京都、2006/5/30-6/1
2. 高橋 豊、松波由貴子、伊東広臨、縄手 満、鹿野高明、沢田博行、遠藤理香、石黒信久：小児喘鳴性疾患における human metapneumovirus の関与についての検討-第 3 報 RS ウイルスとの比較. 第 56 回日本アレルギー学会秋季学術大会、東京都、2006/11/2-4

### 地方学会

1. 高橋 豊：小児喘息とウイルス感染の関わり. 札幌市小児科医会、札幌市、2006/1/17
2. 来海公彦、川原朋乃、羽田美保、米川元晴、田端祐一、鹿野高明、高橋 豊、衣川佳数、澤田博之：Phenobarbital で発症した DIHS (drug-induced hypersensitivity syndrome) の一例. 第 18 回北海道リウマチ性疾患研究会、札幌市、2006/2/25
3. 縄手 満：成育医療センターの感想. 北海道大学小児科神経班懇話会、札幌市、2006/7/26
4. 縄手 満：児童精神医学の研修 - 国立成育医療センターの 2 年 - . 第 3 回北海道小児心身医学研究会、札幌市、2006/7/30
5. 縄手 満：こころの研修の実際と現在の診療. 千歳・恵庭小児科勉強会、千歳市、2006/11/10
6. 伊東広臨、松波由貴子、縄手 満、鹿野高明、高橋 豊：完全房室ブロックから心停止を来たし、後遺症なく回復したウイルス性心筋炎の 1 例. 第 58 回北日本小児科学会、札幌市、2006/9/9
7. 高橋 豊：小児喘鳴性疾患と感染の関わり. 札幌市耳鼻咽喉科医会、札幌市、2006/10/14
8. 縄手 満、松波由貴子、伊東広臨、鹿野高明、高橋 豊：最近経験したこころの患者の臨床症例. 第 4 回豊平河畔小児医療研究会、札幌市、2006/11/9
9. 伊東広臨、松波由貴子、縄手 満、鹿野高明、高橋 豊：完全房室ブロックから心停止を来たし、後遺症なく回復したウイルス性心筋炎の 1 例. 第 4 回豊平河畔小児科研究会、札幌市、2006/11/9
10. 松波由貴子、伊東広臨、縄手 満、鹿野高明、高橋 豊、鈴木 信、山崎由美子、若井周治：ロタウイルス胃腸炎に合併した尿路結石の一例. 第 267 回日本小児科学会北海道地方会、札幌市、2006/11/26



## 天使病院

### 所属メンバー

- ・古賀 康嗣 (昭和 54 年卒)
- ・外木 秀文 (昭和 57 年卒)
- ・高橋 伸浩 (昭和 62 年卒)
- ・奥原 宏治 (平成 4 年卒)
- ・伊藤 智城 (平成 14 年卒)
- ・脇口 定衛 (独自採用)
- ・宮川 雅美 (独自採用)

### 卒後臨床研修医

9 名

### 専門外来

- ・心臓外来 (北大小児科医師 ×3/月)
- ・神経外来 (北大小児科医師 ×2/月)
- ・アレルギー外来 (古賀 ×1/週)
- ・遺伝外来 (外木 ×1/週)
- ・NICU フォローアップ外来 (高橋 ×2/週)
- ・内分泌外来 (奥原 ×1/週)

病院全体の医師数	50 人
小児科医師数	6 人 (うち非常勤 人)

病院全体の病床数	260 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	31 床
NICU 病床数	12 床
新生児病床数(NICU を除く)	9 床

NICU としての認定 あり なし

平均小児科外来数	75.0 人/日
平均時間外外来数	5.0 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	1,836 人/年
年間のべ入院患者数	16,657 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	387 人/年

年間分娩数	800 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	145 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	30 人/年
年間呼吸管理患者数	25 人/年

**発表論文の詳細**

1. Miyake N, Shimokawa O, Harada N, Sosonkina N, Okubo A, Kawara H, Okamoto N, Ohashi H, Kurosawa K, Naritomi K, Kawame T, Nagai T, Shotelersuk V, Hou JW, Fukushima Y, Kondoh Y, Matsumoto T, Shinoki T, Kato M, Tonoki H, Homura M, Yoshiura KI, Kishino T, Ohta T, Niikawa N and Matsumoto N: No detectable genomic aberrations by BAC array CGH in Kabuki make-up syndrome patients. *Am J Med Genet A* 140A: 291-293, 2006
2. Ichikawa M, Okajima M, Wada T, Gokan Y, Shimakage H, Tonoki H and Saitoh S: Non-chromosome 15 marker chromosome in a Prader-Willi syndrome patient with uniparental disomy. *Pediatr Internatl* 48: 1-2, 2006
3. Saitoh S, Hosoki K, Takano K and Tonoki H: Mosaic paternally derived inv dup (15) may partially rescue the Prader-Willi syndrome phenotype with uniparental disomy. *Clin Genet* (in press)
4. Sato D, Kawara H, Shimokawa O, Harada N, Tonoki H, Takahashi H, Imai Y, Kimura H, Matsumoto N, Ariga T, Niikawa N and Yoshiura K: A Down syndrome girl with partial trisomy for 21pter-q22.13: A clue to narrow the Down syndrome critical region. *Am J Med Genet* (in press)
5. 城和歌子、中本 哲、奥原宏治、高橋伸浩、外木秀文、古賀康嗣、窪田 満: 遅発型グルタル酸尿症 2 型の 1 例—タンデム質量分析計を用いた新生児マススクリーニングの有用性—。日本マス・スクリーニング学会雑誌 (in press)
6. 渡辺麻衣子、小西祥平、金田 眞、高橋伸浩、外木秀文、古賀康嗣、山崎泰弘、小林正明: 化膿性股関節炎の 2 例。臨床小児医学 (in review)

**学会発表****全国学会**

1. 新保輝味、工藤夏美、外木秀文、藤本征一郎、木村宏美、今井優美: 天使病院における最近 2 年間の染色体検査結果について。第 51 回日本人類遺伝学会、米子市、2006/10/17-20
2. 外木秀文、川良洋城、原田直樹、小崎里華、松本直通: Axenfeld 奇形をもつ女児の 6 番染色体短腕部分欠失の解析。第 51 回日本人類遺伝学会、米子市、2006/10/17/20
3. 外木秀文、佐藤大介、霜川 修、川良洋城、原田直樹、高橋伸浩、木村宏美、新保輝味、工藤夏美、松本直通、新川詔夫: まれな染色体異常 46, xx, idic (21) (q22.13) ins (13;21) (q12.1;q22.13q22.3) をもつ Down 症候群症例の分子細胞遺伝子学的検討。第 29 回日本小児遺伝学会、米子市、2006/10/21

**地方学会**

1. 小幡菜穂、高橋伸浩、奥原宏治、外木秀文、古賀康嗣、渡利道子、吉田 博、藤本征一郎: 新生児ヘモクロマトーシスの双胎児例. 第 9 回北海道出生前診断研究会、札幌市、2006/11/18
2. 蝶まどか、渡利道子、計良光昭、相澤貴之、浅野讚一郎、吉田 博、外木秀文、工藤夏美、新保輝味、藤本征一郎: 当院における過去 3 年間の羊水染色体検査について. 第 9 回北海道出生前診断研究会、札幌市、2006/11/18
3. 宮川雅美、脇口定衛、伊藤智城、奥原宏治、高橋伸浩、外木秀文、古賀康嗣、山本浩史: 小腸穿孔で発症し、術後自力排便を認めた long segment aganglionosis の一例. 第 267 回日本小児科学会北海道地方会、札幌市、2006/11/26
4. 渡部 恵、脇口定衛、伊藤智城、宮川雅美、奥原宏治、高橋伸浩、外木秀文、古賀康嗣、山本浩史: 先天性小腸閉鎖症 17 例の検討. 第 267 回日本小児科学会北海道地方会、札幌市、2006/11/26
5. 脇口定衛、外木秀文、伊藤智城、宮川雅美、奥原宏治、高橋伸浩、古賀康嗣、山本浩史、金田 眞、小林良二: 外科治療が奏功した N-myc 陽性の後腹膜原発神経芽腫の一例. 第 267 回日本小児科学会北海道地方会、札幌市、2006/11/26
6. 奥原宏治: 有熱時けいれんでみつかったビタミン D 欠乏と水腎症の 1 例. 第 28 回北海道内分泌研究会、札幌市、2007/1/27
7. 伊藤智城、脇口定衛、奥原宏治、高橋伸浩、外木秀文、古賀康嗣、工藤夏美、新保輝味、原田直樹: Axenfeld-Rieger anomaly 患児の分子細胞学的解析. 第 268 回日本小児科学会北海道地方会、札幌市、2007/2/25
8. 宮 卓也、外木秀文、脇口定衛、伊藤智城、奥原宏治、高橋伸浩、古賀康嗣、渡利道子、計良光昭、吉田 博: 当院で経験した Pallister Killian 症候群の 2 例. 第 268 回日本小児科学会北海道地方会、札幌市、2007/2/25
9. 須藤裕嗣: 当科に入院した RS ウイルス感染症患者の検討. 札幌市小児科医会研究会、札幌市、2007/3/13
10. 大場 豪: 卵巣奇形腫の 3 例. 札幌市小児科医会研究会、札幌市、2007/3/13

---

## 北海道社会保険病院

### 所属メンバー

- ・ 沢田 博行 (主任部長、昭和 51 年卒)
- ・ 中山 承代 (部長、昭和 56 年卒)
- ・ 井口 晶裕 (医長、平成 2 年卒)
- ・ 古山 秀人 (医長、平成 4 年卒)
- ・ 岡嶋 真紀 (常勤嘱託医、平成 7 年卒)

### 卒後臨床研修医

0 名

### 専門外来

- ・ 心臓外来 (×3/週)
- ・ 神経外来 (×1/週)
- ・ アレルギー (×1/週)
- ・ 発達外来 (未熟児フォローアップ) (×2/週)
- ・ 腎外来 (×1/2 ヶ月)

病院全体の医師数	50 人
小児科医師数	5 人 (うち常勤嘱託医 1 人)
病院全体の病床数	350 床 (一般 304 床、結核 46 床)
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	24 床
NICU 病床数	3 床
新生児病床数(NICU を除く)	3 床 (GCU として 3 床)

NICU としての認定 あり なし

(平成 18 年 1 月 1 日～平成 18 年 12 月 31 日)

平均小児科外来数	89 人/日
平均時間外外来数	5 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	1,442 人/年
年間のべ入院患者数	10,959 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	約 450 人/年

年間分娩数	468 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	102 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	12 人/年
年間呼吸管理患者数	21 人/年

## 発表論文の詳細

なし

## 学会発表

### 全国学会

1. 井口晶裕: 骨髄非破壊的前処置による非血縁臍帯血移植を行った慢性活動性 EB ウイルス感染症の女児例. 第 29 回日本造血細胞移植学会、福岡市、2007/2/16

### 地方学会

1. 古山秀人: 右冠動脈閉鎖に対しロタブレードを施行した 1 例. 第 7 回北海道川崎病研究会、札幌市、2006/9/30
2. 岡嶋真紀: くり返す嘔吐で来院したプロピオン酸血症の 1 例. 第 4 回豊平河畔小児医療研究会、札幌市、2006/11/9

## 手稲溪仁会病院

### 所属メンバー

- ・ 崎山 幸雄 (小児センター長、昭和 42 年卒) (～平成 18 年 12 月)
- ・ 渡辺 徹 (小児科部長、昭和 49 年卒) (～平成 18 年 9 月)
- ・ 楠 幸博 (小児科医長→小児科部長、昭和 56 年卒)
- ・ 衣川 佳数 (医長、昭和 58 年卒)
- ・ 窪田 満 (医長、昭和 61 年卒)
- ・ 武田宏一郎 (医長、昭和 62 年卒) (平成 18 年 9 月から休職中)
- ・ 佐々木 康 (医長、平成 4 年卒)
- ・ 杉原 暁美 (医師、平成 6 年卒) (独自採用、平成 18 年 6 月～)
- ・ 竹崎俊一郎 (医師、平成 13 年卒)
- ・ 土畠 智幸 (医師、平成 15 年卒) (独自採用)
- ・ 武田真紀子 (医師、平成 16 年卒)

### 卒後臨床研修医

4 名

### 専門外来

- ・ 小児循環器外来 (×7/週)
- ・ 免疫・アレルギー外来 (×2/週)
- ・ 喘息・アレルギー外来 (×2/週)
- ・ 腎臓外来 (×2/週)
- ・ 代謝外来 (×1/週)
- ・ 神経外来 (×1/週)
- ・ 内分泌外来 (×1/月)



病院全体の医師数	201 人
小児科医師数	11 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	547 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	29 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	4 床
NICU としての認定	あり (なし)
平均小児科外来数	90 人/日
平均時間外外来数	16 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	1,475 人/年
年間のべ入院患者数	9,002 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	359 人/年
年間分娩数	520 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	6 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	90 人/年 (心疾患手術症例を含めて)

## 発表論文の詳細

1. 窪田 満: 呼吸不全症候群. 今日の小児治療指針 第 14 版: 339-340, 2006
2. 窪田 満: 低血糖鑑別のための負荷試験. 小児内科 38 (8): 1321-1325, 2006
3. 窪田 満: 子供で欠乏しやすいミネラル、ビタミンは?. 子供の生活習慣病対策: 127-138, 2006
4. 窪田 満: 日常の診療で見出される先天代謝異常症. 小児科診療 69 (11): 1568-1573, 2006
5. 窪田 満: 口腔内疾、患唾液腺疾患. 小児疾患の診断治療基準 第 3 版: 374-375, 2006
6. 窪田 満、小杉山清隆: 胃・十二指腸粘膜障害のメカニズム. 小児内科 39 (3): 459-463, 2007

## 学会発表

### 全国学会

1. Kubota M: Zinc therapy to presymptomatic Wilson's disease detected by urinary ceruloplasmin mass screening. The 6th Meeting of the International Society for Neonatal Screening, Awaji, 2006/9/16-19
2. 竹崎俊一郎、小嶋大樹、土島菜々、戸田壮一郎、土島智幸、武田真紀子、窪田 満、楠幸博、渡辺 徹、崎山幸雄: ICS 長期管理下の小児気管支喘息児におけるスパイロメトリ解析. 第 56 回日本アレルギー学会総会、東京都、2006/11/2-4
3. 土島智幸、本田尚典、立石浩二、横山 健、片山勝之: 下気道閉塞性疾患による乳児呼吸不全に対する NPPV. 第 34 回日本集中治療学会学術集会、神戸市、2007/3/1-3
4. 土島智幸: 小児 NPPV～一般小児科医の立場から～. 第 9 回東京小児 HOT 研究会、東京都、2007/3/10
5. 窪田 満、本間多恵子、野口真紀子、土島智幸、竹崎俊一郎、杉原暁美、楠 幸博、野村昌史: 潰瘍性大腸炎の胃粘膜病変との鑑別に苦慮した AGML の一例. 第 7 回日本小児 IBD 研究会、東京都、2007/3/11

### 地方学会

1. 窪田 満: 新生児科医が知っておくべき先天代謝異常症. 第 19 回北海道新生児懇話会、札幌市、2006/9/23
2. 楠 幸博、窪田 満、渡辺 徹、崎山幸雄: 『札幌の市中病院における小児救急体制』研修医・内科医を交えたシステムの運営と問題点. 札幌市小児科医会研究会、札幌市、2006/9
3. 土島智幸、石原 聡、井戸和己、関下純可、柴田紀子、佐藤秀雄、菊池千歌、本田尚典、立石浩二、横山 健、片山勝之: NPPV, Cough-assist を用いて人工呼吸器から離脱でき

- た先天性ミオパチーの 1 例. 第 16 回日本集中治療学会北海道地方会、札幌市、2006/10/14
4. 窪田 満: 習慣性便秘症と fecal soiling の診断と治療. 第 35 回西区手稲区小児科医会、札幌市、2006/10/24
  5. 福田大記、土畠智幸、窪田 満、楠 幸博、渡辺 徹、崎山幸雄、新関浩人、安保義恭、岸田明博、檉村暢一: 総胆管穿孔をきたした臍胆管合流異常症の 1 例. 日本小児科学会北海道地方会第 267 回例会、札幌市、2006/11/26
  6. 矢野杏奈、竹崎俊一郎、窪田 満、楠 幸博、渡辺 徹、崎山幸雄: 睡眠時無呼吸発作を呈する Hurler 病 1 才男児に CPAP、アデノイド切除術を行った 1 例. 日本小児科学会北海道地方会第 267 回例会、札幌市、2006/11/26
  7. 土畠智幸、武田真紀子、窪田 満、楠 幸博、渡辺 徹、崎山幸雄: 非侵襲的陽圧換気の有用性—呼吸不全に陥った乳児喘息に対する新しい呼吸管理—. 日本小児科学会北海道地方会第 267 回例会、札幌市、2006/11/26
  8. 窪田 満: 日常の診療で見出される先天代謝異常症. 第 27 回道北小児科懇話会、旭川市、2006/12/16
  9. 竹崎俊一郎、佐々木康、窪田 満、衣川佳数、楠 幸博、崎山幸雄: 小児慢性関節炎におけるインフリキシマブ使用経験. 第 19 回北海道小児リウマチ性疾患研究会、札幌市、2007/2/24

## 北海道がんセンター

### 所属メンバー

- ・飯塚 進 (昭和 51 年卒)
- ・長 祐子 (平成 2 年卒)
- ・小林 穂高 (平成 12 年卒)

### 卒後臨床研修医

7 名 (ただし小児科はすべて院外研修)

### 専門外来

- ・心臓外来 (×1/2 ヶ月)
- ・腫瘍・血液・慢性疾患外来 (×2/週)

病院全体の医師数	88 人
小児科医師数	3 人 (うち非常勤 0 人)

病院全体の病床数	520 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	14 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	0 床

NICU としての認定            あり (なし)

平均小児科外来数	15 人/日
平均時間外外来数	0.3 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	164 人/年
年間のべ入院患者数	4,471 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	15 人/年

年間分娩数	0 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	0 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	3 人/年

**発表論文の詳細**

なし

**学会発表****全国学会**

1. 長 祐子、小林穂高、飯塚 進、平賀博明、内藤春彦、明神美弥子、山城勝重: 最近 10 年間に当科で経験した Ewing sarcoma family tumors. 第 22 回日本小児がん学会、大阪府、2006/11/24
2. 花井潤師、福士 勝、藤田晃三、西 基、飯塚 進、内藤春彦: 札幌市における神経芽腫スクリーニング—1 才 2 ヶ月の成績と 1 才 6 ヶ月スクリーニングへの移行—. 第 22 回日本小児がん学会、大阪府、2006/11/24
3. 西 基、福士 勝、藤田晃三、花井潤師、飯塚 進、内藤春彦、一宮久恵、田中念泰: 次世代生産の視点から見た神経芽腫マス・スクリーニング. 第 22 回日本小児がん学会、大阪府、2006/11/24
4. 前田好章、内藤春彦、濱田朋倫、篠原敏樹、佐藤正法、飯塚 進、長 祐子、小林穂高: 腹腔内出血によるショックで緊急手術を要した小児悪性腫瘍の 2 例. 第 22 回日本小児がん学会、大阪府、2006/11/24
5. 松田和之、嶋田 明、小川 淳、渡辺輝浩、柳井文男、菊地 陽、飯塚 進、柳町昌克、川崎圭一郎、矢島周平、真部 淳、小池和俊、小島勢二、小池健一: ras 遺伝子変異を示した若年性骨髄単球性白血病 (JMML) 13 例の臨床像. 第 48 回日本小児血液学会、大阪府、2006/11/26
6. 多賀 崇、下村保人、堀越泰雄、小川 淳、陳 基明、三宅宗典、伊藤正樹、上玉利彰、飯塚 進、佐藤典子、堀 寿成、鶴澤正仁: 寛解導入療法 AVC 部分寛解および非寛解群を同種多植により救済できるか? —CCLSG AML9805RE 研究中間解析—. 第 48 回日本小児血液学会、大阪府、2006/11/26
7. 飯塚 進、小林穂高、長 祐子: JRSG04004 再発症例について. 第 7 回 JRSG 研究会、東京都、2007/1/20

**地方学会**

1. 飯塚 進、小林穂高、長 祐子: 小児に対する家庭内凝固因子補充の導入—その問題点と対応—. 第 12 回北海道血友病研究会、札幌市、2006/7/8
2. 小林穂高、長 祐子、飯塚 進: 連休の初日に入院した高危険群の乳児白血病. 第 14 回北海道小児血液セミナー、札幌市、2006/9/1
3. 飯塚 進、小林穂高、長 祐子: 縦隔発症未熟胚細胞腫瘍の一例. 第 4 回豊平河畔小児医療研究会、札幌市、2006/11/9

4. 飯塚 進、小林穂高、長 祐子: Monosomy7 出現に伴い急性増悪した N-ras 陽性若年性骨髄単球性白血病の一例. 第 23 回北海道小児血液研究会、札幌市、2006/11/18
5. 長 祐子、小林穂高、飯塚 進、加藤直子、山城勝重: 早期再発をみた Anaplastic Large Cell Lymphoma (ALCL) の一例. 北海道悪性リンパ腫講演会、札幌市、2007/1/13
6. 小林穂高、長 祐子、飯塚 進、内藤春彦、山城勝重、鈴木宏明、阿部敦子、田上泰子: 生後 18 ヶ月マススクリーニングで発見された神経芽腫 4 症例の検討. 第 32 回北海道小児がん研究会、札幌市、2007/3/9

## J R 札幌鉄道病院

### 所属メンバー

- ・ 中山 雅之 (昭和 48 年卒) (～平成 18 年 10 月)
- ・ 成田 光生 (主任医長、昭和 57 年卒)

### 卒後臨床研修医

0 名

### 専門外来

なし



病院全体の医師数	47 人	
小児科医師数	1 人	(うち非常勤 人)
病院全体の病床数	312 床	(病棟改築中)
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	0 床	
NICU 病床数	0 床	
新生児病床数(NICU を除く)	0 床	
NICU としての認定	あり	(なし)
平均小児科外来数	7 人/日	
平均時間外外来数	0 人/日	(小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	0 人/年	
年間のべ入院患者数	0 人/年	(入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	0 人/年	
年間分娩数	0 人/年	
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	0 人/年	
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年	
年間呼吸管理患者数	0 人/年	

## 発表論文の詳細

1. Suzuki S, Yamazaki T, Narita M, Okazaki N, Suzuki I, Andoh T, Matsuoka M, Kenri T, Arakawa Y and Sasaki T: Clinical evaluation of macrolide-resistant *Mycoplasma pneumoniae*. *Antimicrob Agents Chemother* 50: 709-712, 2006
2. Kataoka H, Yasuda M, Iyori M, Kiura K, Narita M, Nakata T and Shibata K: Roles of N-linked glycans in the recognition of microbial lipopeptides and lipoproteins by TLR2. *Cell Microbiol* 8: 1199-1209, 2006
3. Yamazaki T, Narita M, Sasaki N, Kenri T, Arakawa Y and Sasaki T: Comparison of PCR for sputum samples obtained by induced cough and serological tests for diagnosis of *Mycoplasma pneumoniae* infection in children. *Clin Vac Immunol* 13: 708-710, 2006
4. 成田光生: 肺炎マイコプラズマ菌のマクロライド耐性化が臨床に及ぼす影響と問題。「百日咳菌、ジフテリア菌、マイコプラズマ等の臨床分離菌の収集と分子疫学的解析に関する研究」厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）平成 17 年度総括・分担研究報告書: 59-65, 2006
5. 成田光生: マイコプラズマ感染症. 山口 徹、北原光夫、福井次矢 総編集; 今日の治療指針 2006 年版 医学書院 東京: 163, 2006
6. 成田光生: マイコプラズマ肺炎. 大関武彦、古川 漸、横田俊一郎 共編; 今日の小児治療指針第 14 版 医学書院 東京: 299-300, 2006
7. 成田光生: 肺炎マイコプラズマ感染症. 日本小児感染症学会編; 日常臨床に役立つ小児感染症マニュアル 2007 東京医学社 東京: 109-115, 2006
8. 成田光生: 肺炎マイコプラズマ 3 臨床像と発症病理. 佐々木次雄 編; 図説 呼吸器系細菌感染症 疫学・診断・治療 じほう社 東京: 50-56, 2006
9. 成田光生: 小児の治療指針 マイコプラズマ感染症. *小児科診療* 69 (増): 132-134, 2006
10. 田中裕士、成田光生、高橋弘毅: マイコプラズマの病原因子と炎症. *最新医学* 61: 230-237, 2006
11. 見理 剛、山崎 勉、岡崎則男、成田光生、佐々木次雄: マイコプラズマ肺炎患者の血清に見られる菌型特異的な血球吸着阻害活性. *日本マイコプラズマ学会雑誌* 32: 10-12, 2006
12. 鈴木里和、久保田眞由美、岡崎則男、見理 剛、山崎 勉、成田光生、荒川宜親、佐々木次雄: マクロライド耐性が *Mycoplasma pneumoniae* 感染症の臨床経過に及ぼす影響. *日本マイコプラズマ学会雑誌* 32: 13-14, 2006
13. 成田光生: *Mycoplasma pneumoniae*-ELISA medac の有用性に関する検討. *日本マイコプラズマ学会雑誌* 32: 20-22, 2006
14. 成田光生: マイコプラズマ肺炎における 'in vitro-in vivo paradox'. *日本マイコプラズマ学会雑誌* 32: 68-72, 2006
15. 田中裕士、成田光生: マイコプラズマ感染症成立および治療における免疫学的機序の検討. *日本マイコプラズマ学会雑誌* 32: 73-75, 2006
16. 成田光生: 耐性菌が教えるマイコプラズマの生物学的サプライズ. *日本医事新報* 4291:

58-62, 2006

17. 成田光生: 主として市中感染で問題となる耐性菌 1. 肺炎マイコプラズマ (基礎編). 臨床検査 50: 923-926, 2006
18. 成田光生: 主として市中感染で問題となる耐性菌 1. 肺炎マイコプラズマ (臨床編). 臨床検査 50: 927-931, 2006
19. 岡崎則男、大屋日登美、佐々木次雄、成田光生: 肺炎マイコプラズマの分離培養と薬剤感受性試験. 日本マイコプラズマ学会雑誌 33: 60-63, 2006
20. 成田光生: 簡易クロマトグラフ法及び ELISA 法の利点と限界. 日本マイコプラズマ学会雑誌 33: 71-75, 2006
21. 成田光生: 耐性マイコプラズマは静観. 進化する耐性菌 外来でこう戦う!. Nikkei Medical 465: 61, 2006
22. 成田光生: 日ごろの気になる「この症状」薬を飲んでいるのに、いつまでも咳が長引く. ホームドクター 中央区版 24 財界さっぽろ 札幌: 7, 2006
23. 成田光生: マイコプラズマ肺炎が急増. 長引く夏風邪 見過ごさない. 日本経済新聞 2006 年 9 月 6 日夕刊

## 学会発表

### 全国学会

1. 成田光生: シンポジウム「小児科外来診療における耐性菌の現状と対策」肺炎マイコプラズマ. 第 80 回日本感染症学会学術講演会、東京都、2006/4
2. 成田光生: シンポジウム「マイコプラズマ感染症: 診断の現状と問題点」簡易クロマトグラフ法及び ELISA 法の利点と限界. 第 33 回日本マイコプラズマ学会学術集会、東京都、2006/6

### 地方学会

1. 成田光生: 特別講演 周産期のウイルス感染症と妊娠による母体の変化. 北上医師会 母子保健講演会、北上市、2006/2
2. 成田光生: 特別講演 マイコプラズマ感染症 診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題. 苫小牧小児科医会研修会、苫小牧市、2006/2
3. 成田光生: 特別講演 マイコプラズマ感染症 診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題. 第 5 回新潟小児感染症研究会、新潟、2006/3
4. 成田光生: 特別講演 マイコプラズマ感染症 診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題. 第 2 回倉敷小児感染症懇話会、倉敷、2006/3
5. 成田光生: 特別講演 マイコプラズマ感染症 診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題. 平成 18 年度岩手県小児科医会定時総会並びに講演会、盛岡市、2006/4

6. 成田光生: 特別講演 マイコプラズマ感染症 診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題. 清田区・小児科医会勉強会、札幌市、2006/5
7. 成田光生: 薬剤耐性マイコプラズマ感染症の治療～マクロライドの役割について～. 大正富山メディカルフォーラム、札幌市、2006/7
8. 成田光生: 特別講演 マイコプラズマ感染症 診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題. 第 40 回日耳鼻広島県地方部会東部耳鼻科医会、福山、2006/10
9. 成田光生: 特別講演 マイコプラズマ感染症 診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題. 第 17 回広島小児感染免疫研究会、広島、2006/11
10. 成田光生: 特別講演 マイコプラズマ感染症 診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題. 小樽市小児科部会例会、小樽市、2006/11

## 北海道医療大学病院

### 所属メンバー

- ・柴田 睦郎 (医長、昭和 55 年卒)

### 卒後臨床研修医

0 名

### 専門外来

なし

病院全体の医師数	17 人
小児科医師数	1 人 (うち非常勤 人)
病院全体の病床数	24 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	0 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	0 床
NICU としての認定	あり (なし)
平均小児科外来数	20 人/日
平均時間外外来数	0 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	0 人/年
年間のべ入院患者数	人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	人/年
年間分娩数	0 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	人/年
年間呼吸管理患者数	人/年

**発表論文の詳細**

1. 柴田睦郎: 苦手な数学を教えて!私を変えてくれた患者さんからのこの一言!. 日本プライマリ・ケア学会誌、日本医事新報社 東京: 200-201, 2007/1
2. Kikuta H, Shibata M, Nakata S, et al: Efficacy of Antibiotic Prophylaxis for Intrafamilial Transmission of Group A  $\beta$ -Hemolytic Streptococci. *Pediatr Infect Dis J* 26 (2) : 139-141, 2007
3. 柴田睦郎: 第 3 回ヘルスリサーチワークショップに参加して. ファイザーヘルスリサーチニュース 46: 23, 2007

**学会発表****全国学会**

なし

**地方学会**

なし

## 愛育病院

### 所属メンバー

- ・加藤 幹子 (昭和 60 年卒)

### 卒後臨床研修医

0 名

### 専門外来

なし



病院全体の医師数	14 人
小児科医師数	1 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	180 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	2 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	0 床
NICU としての認定	あり (なし)
平均小児科外来数	11 人/日
平均時間外外来数	0~1 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	104 人/年
年間のべ入院患者数	278 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	3 人/年
年間分娩数	0 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	0 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

**発表論文の詳細**

なし

**学会発表**

**全国学会**

なし

**地方学会**

なし

## 札幌北楡病院

### 所属メンバー

- ・ 小林 邦彦 (小児科顧問、昭和 41 年卒)
- ・ 安田 一恵 (小児科部長、昭和 60 年卒)
- ・ 出張医

### 卒後臨床研修医

0 名

### 専門外来

なし

病院全体の医師数	48 人 (うち研修医 6 人、顧問 2 人)
小児科医師数	3 人 (うち非常勤 1 人、顧問 1 人)

病院全体の病床数	231 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	不定床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	0 床

NICU としての認定                      あり (なし)

平均小児科外来数	15~20 人/日
平均時間外外来数	ほぼ 0 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	45 人/年
年間のべ入院患者数	185 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	1 人/年

年間分娩数	人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	人/年
年間呼吸管理患者数	人/年

**発表論文の詳細**

なし

**学会発表**

**全国学会**

なし

**地方学会**

なし

## 榆の会こどもクリニック

### 所属メンバー

- ・石川 丹 (昭和 48 年卒)
- ・柳生 一自 (平成 12 年卒)

### 卒後臨床研修医

0 名

### 専門外来

なし

病院全体の医師数	3 人
小児科医師数	2 人 (うち非常勤 1 人)
病院全体の病床数	16 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	4 床 (12 床はショートステイ用)
NICU 病床数	床
新生児病床数(NICU を除く)	床
NICU としての認定	あり (なし)
平均小児科外来数	121 人/日
平均時間外外来数	わずか 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	62 人/年
年間のべ入院患者数	412 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	わずか 人/年
年間分娩数	人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	人/年
年間呼吸管理患者数	人/年

**発表論文の詳細**

1. 石川 丹: 小児精神科臨床の実際. 臨床小児医学 54: 3-7, 2006
2. 石川 丹: 学校における諸問題の解決に向けて - 医療機関としての連携 - . 教育心理学年報 45: 17, 2006
3. 石川 丹: 子どもの病気 - まわりに共感しない、言葉が独特、こだわりが強い - . ホームドクターVol.21 白石区厚別区江別市版: 4, 2006
4. 石川 丹: 大田原症候群. シリーズ援助の実際 Vol.19 小児のてんかん症候群 日本てんかん協会 東京: 11-15, 2006
5. 末田慶太郎、石川 丹: 楡の会こどもクリニックにおける障がい児診療. 臨床小児医学 54: 49-53, 2006
6. 石川 丹、末田慶太郎、柳生一自: 攻撃的な 4 歳児の精神発達治療. 臨床小児医学 54: 64-66, 2006
7. 田野準子、小野智亜貴、石川 丹: 障がい幼児のトイレトレーニング-人形を使ったモデリング - . 臨床小児医学 54: 83-86, 2006
8. 石川 丹、末田慶太郎、柳生一自: 揉み手と息止めが消失し Rett 症候群ではなくなった 1 例. 臨床小児医学 54: 103-105, 2006

**学会発表****全国学会**

1. 田野準子、小野智亜貴、石川 丹: 障がい幼児のトイレトレーニング - 人形を使ったモデリング - . 第 41 回日本発達障害学会、2006/6/24

**地方学会**

1. 柳生一自、石川 丹: アテトーゼ型脳性麻痺、軽度精神遅滞をもつ若年青年の転換性障害に対して心理療法ケースワークを行い改善した一例. 日本小児科学会第 267 回北海道地方会、札幌市、2006/11/26
2. 石川 丹: 子どもの非社会的行動と攻撃行動の理解と対応～小児神経精神医学からのアプローチ～. 北海道特別支援教育学会道央支部研修会、2007/2/24
3. 柳生一自、石川 丹: Fanconi 症候群を発症した 5 歳の重症心身障害児例. 第 9 回日本小児神経学会北海道地方会、2007/3/10



## 江別市立病院

### 所属メンバー

- ・梶井 直文 (院長、昭和 51 年卒)
- ・信太 知 (主任部長、昭和 59 年卒)
- ・板倉 治 (部長、昭和 61 年卒)
- ・鈴木 雄治 (部長、平成 3 年卒)

### 卒後臨床研修医

3 名 (単独型 : 1 名、北大関連病院として : 2 名 ×1/2 ヶ月)

### 専門外来

- ・神経・発達外来 (×1/週)
- ・心臓外来 (×1/週)
- ・アレルギー・肥満・夜尿外来 (×1/週)
- ・腎臓外来 (×1/月)
- ・血液外来 (×1/2 ヶ月)
- ・神経・脳波外来 (×1/週)

病院全体の医師数	35.5 人	(平成 19 年 3 月)
小児科医師数	4 人	(うち非常勤 人)

病院全体の病床数	337 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	22 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	5 床

NICU としての認定                      あり (なし)

平均小児科外来数	79.7 人/日	
平均時間外外来数 (休日当番日なし)	13.5 人/日	(小児科医が診察したものです)
	(休日当番日あり)	54.5 人/日

年間入院患者数	1,248 人/年	
年間のべ入院患者数	7,424 人/年	(入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 (休日当番なし)	223 人/年	
	(休日当番あり)	234 人/年

年間分娩数	252 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	20 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

**発表論文の詳細**

なし

**学会発表**

**全国学会**

なし

**地方学会**

なし

## 市立美唄病院

### 所属メンバー

- ・永田 康 (昭和 50 年卒)
- ・小川 泰弘 (昭和 61 年卒)

### 卒後臨床研修医

0 名

### 専門外来

- ・心臓外来 (北大出張医 ×1/月)
- ・内分泌外来 (北大出張医 ×1/月)

病院全体の医師数	11 人
小児科医師数	2 人 (うち非常勤 1 人)
病院全体の病床数	209 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	19 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	0 床
NICU としての認定	あり (なし)
平均小児科外来数	66.2 人/日
平均時間外外来数	3.9 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	55 人/年
年間のべ入院患者数	313 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	26 人/年
年間分娩数	0 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	人/年
年間呼吸管理患者数	人/年

**発表論文の詳細**

なし

**学会発表**

**全国学会**

なし

**地方学会**

なし

## 美唄労災病院

### 所属メンバー

- ・ 秋野 信子 (昭和 43 年卒)

### 卒後臨床研修医

0 名

### 専門外来

- ・ 心臓外来 (×1/月)
- ・ 神経外来 (×1/6 ヶ月)

病院全体の医師数	31 人
小児科医師数	1 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	350 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	2 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	0 床
NICU としての認定	あり (なし)
平均小児科外来数	20~30 人/日
平均時間外外来数	0~1 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	165 人/年
年間のべ入院患者数	990 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	10~20 人/年
年間分娩数	人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	人/年
年間呼吸管理患者数	1 人/年



**発表論文の詳細**

なし

**学会発表**

**全国学会**

なし

**地方学会**

なし

## 市立三笠総合病院

### 所属メンバー

- ・三山 隆司 (昭和 45 年卒)

### 卒後臨床研修医

3 名

### 専門外来

- ・心臓外来 (×1/年)

病院全体の医師数	19 人
小児科医師数	1 人 (うち非常勤 人)
病院全体の病床数	199 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	4 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	2 床
NICU としての認定	あり (なし)
平均小児科外来数	21 人/日
平均時間外外来数	人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	74 人/年
年間のべ入院患者数	303 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	20 人/年
年間分娩数	15 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	0 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

**発表論文の詳細**

なし

**学会発表**

**全国学会**

なし

**地方学会**

なし

## 市立小樽病院

### 所属メンバー

- ・小田川 泰久 (医長、昭和 59 年卒)

### 卒後臨床研修医

0 名

### 専門外来

- ・心臓外来 (×1/週)
- ・神経外来 (×1/2 ヶ月)

病院全体の医師数	30 人
小児科医師数	1 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	350 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	0 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	0 床
NICU としての認定	あり (なし)
平均小児科外来数	25 人/日
平均時間外外来数	0 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	0 人/年
年間のべ入院患者数	0 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	0 人/年
年間分娩数	0 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	0 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

**発表論文の詳細**

なし

**学会発表**

**全国学会**

なし

**地方学会**

なし

## 俱知安厚生病院

### 所属メンバー

- ・奥野 章裕 (主任部長、昭和 55 年卒)
- ・森田 啓介 (部長、平成元年卒)

### 卒後臨床研修医

3 名 (2 名+他 1 名は 1 ヶ月毎)

### 専門外来

- ・心臓外来 (×1/月)



病院全体の医師数	35 人	
小児科医師数	2 人	(うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	392 床	
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	16 床	
NICU 病床数	0 床	
新生児病床数(NICU を除く)	0 床	
NICU としての認定	あり	なし
平均小児科外来数	29.3 人/日	
平均時間外外来数	5.1 人/日	(小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	757 人/年	
年間のべ入院患者数	3,163 人/年	(入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	123 人/年	
年間分娩数	383 人/年	
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	36 人/年	
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年	
年間呼吸管理患者数	2 人/年	

**発表論文の詳細**

なし

**学会発表**

**全国学会**

なし

**地方学会**

なし

## 岩内協会病院

### 所属メンバー

- ・ 浜崎 和朗 (平成 5 年卒)

### 卒後臨床研修医

0 名

### 専門外来

- ・ アレルギー外来 (川村信明 ×1/1-2 ヶ月)
- ・ 神経外来 (白石秀明 ×1/3 ヶ月)

病院全体の医師数	5 人
小児科医師数	1 人 (うち非常勤 人)
病院全体の病床数	240 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	6 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	0 床
NICU としての認定	あり (なし)
平均小児科外来数	41.8 人/日
平均時間外外来数	1 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	162 人/年
年間のべ入院患者数	632 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	人/年
年間分娩数	人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	人/年
年間呼吸管理患者数	人/年

**発表論文の詳細**

なし

**学会発表**

**全国学会**

なし

**地方学会**

なし

## 市立千歳市民病院

### 所属メンバー

- ・ 樫丸 博幸 (診療部長、昭和 51 年卒)
- ・ 今村 啓作 (主任医長、昭和 63 年卒) (～平成 18 年 7 月)
- ・ 波多野典一 (主任医長、平成 4 年卒) (平成 18 年 9 月～)
- ・ 佐藤亜矢子 (医員、平成 8 年卒)
- ・ 築詰 紀子 (医員、平成 10 年卒)

### 卒後臨床研修医

0 名

### 専門外来

- ・ 神経外来 (北大)
- ・ 内分泌外来 (北大)
- ・ 心臓外来 (北大)
- ・ 腎・アレルギー外来 (樫丸)

病院全体の医師数	34 人	
小児科医師数	4 人	(うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	190 床	
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	14 床	
NICU 病床数	0 床	
新生児病床数(NICU を除く)	2 床	
NICU としての認定	あり	(なし)
平均小児科外来数	108.2 人/日	
平均時間外外来数	12.5 人/日	(小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	916 人/年	
年間のべ入院患者数	4,429 人/年	(入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	122 人/年	
年間分娩数	356 人/年	
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	36 人/年	
極低出生体重児(1,500g 未満)数	2 人/年	
年間呼吸管理患者数	0 人/年	

### 発表論文の詳細

1. 山澤弘州、村上智明、栃丸博幸: ドライウェイトの設定に心臓超音波検査による左室拡張末期径を用いた小児血液透析患者の 1 例. 日本小児腎臓病学会誌 19: 157-160, 2006

### 学会発表

#### 全国学会

なし

#### 地方学会

なし



## 恵み野病院

### 所属メンバー

- ・畑江 芳郎 (小児科部長、昭和 44 年卒)

### 卒後臨床研修医

2 名

### 専門外来

なし

病院全体の医師数	31 人
小児科医師数	1 人 (うち非常勤 人)
病院全体の病床数	200 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	2 床
NICU 病床数	床
新生児病床数(NICU を除く)	床
NICU としての認定	あり (なし)
平均小児科外来数	15 人/日
平均時間外外来数	人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	110 人/年
年間のべ入院患者数	578 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	人/年
年間分娩数	人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	人/年
年間呼吸管理患者数	人/年

**発表論文の詳細**

なし

**学会発表**

**全国学会**

なし

**地方学会**

なし

## 王子総合病院

### 所属メンバー

- ・内藤 広行 (主任科長、昭和 57 年卒)
- ・小林 徳雄 (科長、昭和 61 年卒)
- ・鈴木 秀久 (科長、平成 7 年卒)
- ・岡本 孝之 (医師、平成 15 年卒)
- ・佐々木 理 (医師、平成 16 年卒)

### 卒後臨床研修医

0 名

### 専門外来

- ・心臓外来 (×1/月)
- ・腎臓外来 (×1/月)
- ・内分泌外来 (×1/月)
- ・神経外来 (×1/週)

病院全体の医師数	63 人
小児科医師数	5 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	440 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	23 床
NICU 病床数	5 床
新生児病床数(NICU を除く)	0 床
NICU としての認定	あり (なし)
平均小児科外来数	76.9 人/日
平均時間外外来数	3.2 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	1,097 人/年
年間のべ入院患者数	10,470 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	155 人/年
年間分娩数	539 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	86 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	6 人/年
年間呼吸管理患者数	7 人/年

**発表論文の詳細**

なし

**学会発表****全国学会**

1. 鈴木秀久、佐々木理、岡本孝之、小林徳雄、内藤広行: 13 歳男児の進行 S 状結腸癌の 1 例. 第 22 回日本小児がん学会、大阪市、2006/11/24

**地方学会**

1. 岡本孝之、佐々木理、鈴木秀久、小林徳雄、内藤広行、田島敏広: バゾプレッシン受容体 (V2 受容体) に新たな遺伝子変異を認めた腎性尿崩症の 1 症例. 日本小児科学会北海道地方会第 266 回例会、旭川市、2006/7/2
2. 佐々木理、岡本孝之、鈴木秀久、小林徳雄、内藤広行: C. difficile 関連下痢症との鑑別が問題となった炎症性疾患の一例. 札幌市、2007/2/25

## 日鋼記念病院

### 所属メンバー

- ・岩田 正道 (昭和 62 年卒)
- ・小野 暁 (昭和 63 年卒)
- ・小杉山清隆 (平成 7 年卒)
- ・里見 達郎 (平成 11 年卒)
- ・宮城 崇史 (平成 16 年卒)
- ・伊丹 儀友 (腎センター所長、昭和 52 年卒)

### 卒後臨床研修医

1 名

### 専門外来

- ・心臓外来 (×1/月)
- ・神経外来 (×2/月)
- ・血液外来 (×1/2 ヶ月)
- ・内分泌外来 (×1/3 ヶ月)
- ・遺伝外来 (×1/3 ヶ月)
- ・発達外来 (×7/月)

---

病院全体の医師数	95 人
小児科医師数	5 人 (うち非常勤 0 人)

病院全体の病床数	485 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	20 床
NICU 病床数	3 床
新生児病床数(NICU を除く)	5 床

NICU としての認定 あり なし

平均小児科外来数	52 人/日
平均時間外外来数	11 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	852 人/年
年間のべ入院患者数	9,000 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	335 人/年

年間分娩数	244 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	60 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	7 人/年
年間呼吸管理患者数	12 人/年



**発表論文の詳細**

なし

**学会発表**

**全国学会**

なし

**地方学会**

1. 宮城崇史 他：硬膜下膿瘍を合併した急性副鼻腔炎の 1 例. 第 267 回小児科北海道地方会、札幌市、2006/11/26

## 新日鐵室蘭総合病院

### 所属メンバー

- ・ 田原 泰夫 (小児科長、昭和 59 年卒)
- ・ 越後谷雅代 (医師、平成 6 年卒)

### 卒後臨床研修医

0 名

### 専門外来

- ・ 心臓外来 (×3/月)
- ・ 神経外来 (×1/月)
- ・ 内分泌外来 (×1/月)
- ・ 腎臓外来 (×1/月)

病院全体の医師数	47 人
小児科医師数	2 人 (うち非常勤 1 人)
病院全体の病床数	347 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	8 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	5 床
NICU としての認定	あり (なし)
平均小児科外来数	33.2 人/日
平均時間外外来数	2.5 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	718 人/年
年間のべ入院患者数	4,159 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	123 人/年
年間分娩数	486 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	39 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

### 発表論文の詳細

1. 田原泰夫: 小児科の展望. 新日鐵室蘭総合病院医誌 40 (1) : 7, 2007
2. 越後谷雅代、田原泰夫: 当院において今年度発症した川崎病 17 例のまとめ. 新日鐵室蘭総合病院医誌 40 (1) : 58-60, 2007

### 学会発表

#### 全国学会

なし

#### 地方学会

なし

## 伊達赤十字病院

### 所属メンバー

- ・小野寺 隆 (昭和 60 年卒)

### 卒後臨床研修医

2 名

### 専門外来

なし

病院全体の医師数	36.8 人
小児科医師数	2 人 (うち非常勤 1 人)
病院全体の病床数	360 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	13 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	0 床
NICU としての認定	あり (なし)
平均小児科外来数	47.3 人/日
平均時間外外来数	6.1 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	582 人/年
年間のべ入院患者数	2,669 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	214 人/年
年間分娩数	350 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	22 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

**発表論文の詳細**

なし

**学会発表**

**全国学会**

なし

**地方学会**

なし

## 市立旭川病院

### 所属メンバー

- ・小西 貴幸 (昭和 54 年卒)
- ・佐竹 明 (昭和 62 年卒)
- ・中嶋 雅秀 (平成 8 年卒)
- ・稲本 潤 (平成 13 年卒)
- ・小関 直子 (平成 16 年卒)

### 卒後臨床研修医

5 名 (1 名は 2 ヶ月間)

### 専門外来

- ・心臓外来 (小西)
- ・川崎病外来 (小西)
- ・神経外来 (佐竹)
- ・血液外来 (中嶋)
- ・腎臓外来 (長野奈緒子)



病院全体の医師数	83 人
小児科医師数	5 人 (うち非常勤 人)

病院全体の病床数	588 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	23 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	2 床

NICU としての認定                      あり (なし)

平均小児科外来数	70~90 人/日
平均時間外外来数	5~6 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	900~1,000 人/年
年間のべ入院患者数	6,000~7,000 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	200~300 人/年

年間分娩数	250~300 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	20~30 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	5~10 人/年

**発表論文の詳細**

1. 村上智明、上野倫彦、武田充人、八鍬 聡、山澤弘州、村下十志文、今村道明、小西貴幸: 外科治療とカテーテル治療により Fontan 循環に移行しえた多発性末梢性肺動脈狭窄を有する純型肺動脈閉鎖の 1 例. 胸部外科 59 (2) : 157-159, 2006
2. 里見達郎、高橋有美、山澤弘州、佐竹 明、小西貴幸: 免疫グロブリン大量療法を行った急性心筋症の 1 乳児例. 旭川市立病院医誌 37・38: 24-27, 2006

**学会発表****全国学会**

なし

**地方学会**

1. 中嶋雅秀: 新生児期機能性心雑音と診断された大動脈縮窄兼僧帽弁逆流の乳児例. 第 112 回旭川心臓を診る会、旭川市、2006/5
2. 中嶋雅秀、小関直子、稲本 潤、佐竹 明、小西貴幸: 新生児期機能性心雑音と診断された大動脈縮窄兼僧帽弁逆流の乳児例. 日本小児科学会北海道地方会第 266 回例会、旭川市、2006/7
3. 稲本 潤: IVIG、血漿交換、UTI、Cya、MTX が無効で最終的に Infliximab が著効した、治療抵抗性の 17 歳川崎病初発例. 第 7 回北海道川崎病研究会、札幌市、2006/9
4. 稲本 潤、小関直子、中嶋雅秀、佐竹 明、小西貴幸: IVIG、血漿交換、UTI、Cya、MTX が無効で最終的に Infliximab が著効した、治療抵抗性の 17 歳川崎病初発例. 第 27 回道北小児科懇話会、旭川市、2006/12

## 北見赤十字病院

### 所属メンバー

- ・三河 誠 (昭和 50 年卒)
- ・小林 一郎 (昭和 59 年卒)
- ・斉田 吉伯 (平成 5 年卒)
- ・那須 敬 (平成 5 年卒)
- ・植田 佑樹 (平成 15 年卒)
- ・兼次 洋介 (平成 16 年卒)

### 卒後臨床研修医

2 名

### 専門外来

- ・未熟児フォローアップ
- ・アレルギー
- ・心臓
- ・発達
- ・腎臓
- ・神経
- ・肥満
- ・内分泌
- ・血液
- ・言葉

病院全体の医師数 常勤 74 人、初期研修医 24 人

小児科医師数 7 人 (うち非常勤 1 人)

病院全体の病床数 680 床

小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 33 床

NICU 病床数 6 床

新生児病床数(NICU を除く) 18 床

NICU としての認定 あり なし

平均小児科外来数 107 人/日

平均時間外外来数 14.4 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 1,472 人/年

年間のべ入院患者数 15,257 人/年 (入院患者数×入院日数)

年間時間外入院患者数 537 人/年

年間分娩数 447 人/年

年間低出生体重児(2,500g 未満)数 96 人/年

極低出生体重児(1,500g 未満)数 15 人/年

年間呼吸管理患者数 17 人/年

**発表論文の詳細**

1. Shiari R, Kobayashi I, Toita N, Hatano N, Kawamura N, Okano M, Hayashi Y, Kobayashi K and Ariga T: Epitope mapping of anti- $\alpha$ -fodrin autoantibody in juvenile Sjögren's syndrome: difference in major epitopes between primary and secondary cases. *J Rheumatol* 33: 1395-1400, 2006
2. Tsuji Y, Abe Y, Hisano M, Ichihashi I, Itabashi K, Kobayashi I and Sakai T: A case of juvenile Sjögren's syndrome without autoantibodies diagnosed according to the 1996 European Classification Criteria. *Showa Univ J Med Sci* 18: 103-108, 2006
3. 小林一郎: 抑制性 T 細胞欠損による免疫不全症 -Immunedysregulation, polyendocrinopathy, enteropathy, X-linked syndrome (IPEX)-. *血液フロンティア* 26: 63-71, 2006
4. 小林一郎: 自己免疫性肝炎. *小児慢性疾患診療マニュアル* 加藤忠明監修 診断と治療社: 354-355, 2006
5. 小林一郎: 自己免疫性腸炎. *小児慢性疾患診療マニュアル* 加藤忠明監修 診断と治療社: 356, 2006

**学会発表****全国学会**

1. 伊藤靖典、淵澤竜也、東山弘幸、足立雄一、金兼弘和、宮脇利男、小林一郎、田中 完、蒲池吉朗: FOXP3 陽性 CD25+CD4+T 細胞の成長に伴う変化と FOXP3 遺伝子変異例における異常. 第 36 会日本免疫学会総会、大阪市、2006/12/11-13

**地方学会**

1. 植田佑樹、兼次洋介、斉田吉伯、那須 敬、小林一郎、三河 誠: TSST-1 陽性黄色ブドウ球菌によるトキシックショック症候群の 1 例. 日本小児科学会北海道地方会第 267 例会、札幌市、2006/11/26

## 美幌町立病院

### 所属メンバー

・高橋 富彦 (昭和 60 年卒)

### 卒後臨床研修医

0 名

### 専門外来

なし

病院全体の医師数	6 人
小児科医師数	1 人 (うち非常勤 人)
病院全体の病床数	床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	0 床
NICU としての認定	あり (なし)
平均小児科外来数	17 人/日
平均時間外外来数	0 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	100 人/年
年間のべ入院患者数	人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	人/年
年間分娩数	0 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	0 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

**発表論文の詳細**

なし

**学会発表**

**全国学会**

なし

**地方学会**

なし



## 函館中央病院

### 所属メンバー

- ・山田 豊 (副院長、昭和 47 年卒)
- ・水上 晋 (科長、昭和 59 年卒)
- ・木田 毅 (未熟児センター長、昭和 60 年卒)
- ・大湯 淳功 (医長、昭和 63 年卒)
- ・佐々木真樹 (医長、平成 2 年卒)
- ・盛一 享徳 (医長、平成 9 年卒)
- ・佐藤 泰征 (医員、平成 16 年卒)

### 卒後臨床研修医

8 名

### 専門外来

- ・神経 (×8/月)
- ・心臓 (×8/月)
- ・血液 (×1/月)
- ・遺伝 (×1/年)
- ・予防接種 (×8/月)
- ・未熟児発達 (×20/月)
- ・腎臓 (×1/3 ヶ月)
- ・エコー外来 (主に心疾患) (×8/月)

### その他

- ・慢性疾患＋乳健の外来 (×8/月)

病院全体の医師数	94 人
小児科医師数	7 人 (うち非常勤 0 人)

病院全体の病床数	544 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	30 床
NICU 病床数	6 床
新生児病床数(NICU を除く)	19 床

NICU としての認定 あり なし

平均小児科外来数	75.2 人/日
平均時間外外来数	4.0 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	1,603 人/年
年間のべ入院患者数	15,397 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	504 人/年

年間分娩数	769 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	102 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	27 人/年
年間呼吸管理患者数	35 人/年

### 発表論文の詳細

1. 盛一享徳 他: アデノウイルス 3 型による重症肺炎の剖検例. 日本小児科学会雑誌 110: 1676-1679, 2006

### 学会発表

#### 全国学会

なし

#### 地方学会

1. 佐藤 泰征: 気道狭窄を伴った扁桃周囲膿瘍の 1 例. 函館小児科医会症例検討会、2006/5/17
2. 水上 晋: 腹痛を主徴とした肺炎の 1 例. 函館小児科医会症例検討会、2006/5/17
3. 佐藤 泰征: パラインフルエンザウイルス 3 型による呼吸器感染症について. 第 45 回青函小児科懇話会、2006/8/19
4. 木田 毅: 当院の母体搬送例の検討. 道南産科小児科合同研究会、2007/1/17

## 函館五稜郭病院

### 所属メンバー

- ・遠藤満智子 (診療部長、昭和 45 年卒)
- ・岩井 崇 (小児科科長、昭和 58 年卒)
- ・阿部 修司 (小児科医長、平成 3 年卒)
- ・藤田 祥二 (小児科医長、平成 7 年卒)
- ・高梨久仁子 (平成 16 年卒)

### 卒後臨床研修医

0 名

### 専門外来

- ・内分泌外来 (×2/週)
- ・アレルギー・喘息外来 (×2/週)
- ・神経外来 (×1/月)
- ・血液外来 (×1/2 ヶ月)
- ・腎臓外来 (×1/6 ヶ月)

病院全体の医師数	77 人
小児科医師数	5 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	586 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	34 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	5 床
NICU としての認定	あり (なし)
平均小児科外来数	65 人/日
平均時間外外来数	5 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	1,248 人/年
年間のべ入院患者数	7,077 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	148 人/年
年間分娩数	478 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	30 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

**発表論文の詳細**

1. 遠藤満智子、藤田祥二、阿部修司: 肥満小児における 2 型糖尿病予知因子の検討. 肥満研究 12: 234-238, 2006

**学会発表****全国学会**

1. 遠藤満智子、阿部修司: GH 治療終了後、ホルモン補充療法中止により易疲労が増強した身長約 180cm に達した GHD の 2 例. 第 40 回日本小児内分泌学会学術集会、2006/9/28
2. 遠藤満智子: GHD の治療後、下垂体ホルモン補充療法を中止していた 2 男性例. 第 29 回肥満学会、2006/10/28

**地方学会**

1. 藤田祥二、高梨久仁子、阿部修司、岩井 崇、遠藤満智子: アミラーゼが上昇したロタ腸炎の 2 例. 第 45 回青函小児科懇話会、函館市、2006/8/19
2. 高梨久仁子、藤田祥二、阿部修司、岩井 崇、遠藤満智子: 再発を繰り返した急性化膿性甲状腺炎の 1 例. 第 59 回道南医学会、2006/11/19
3. 藤田祥二、高梨久仁子、阿部修司、岩井 崇、遠藤満智子: 肝機能異常の鑑別が重要であった 1 例. 函館小児科医会症例検討会、2006/12/8
4. 阿部修司、高梨久仁子、藤田祥二、岩井 崇、遠藤満智子: 病弱養護学校の役割の変化. 日本小児科学会北海道地方会第 268 回例会、札幌市、2007/2/25

## 帯広協会病院

### 所属メンバー

- ・松本 憲則 (昭和 55 年卒)
- ・青柳 勇人 (平成 3 年卒)
- ・田中 洋充 (平成 13 年卒)
- ・秋元 琢真 (平成 15 年卒)
- ・泉 岳 (平成 16 年卒)

### 卒後臨床研修医

#### 専門外来

- ・アレルギー (松本 ×1/週)
- ・未熟児発達 (松本 ×1/週)
- ・神経 (青柳 ×1/週)
- ・心エコー (青柳 ×1/週)
- ・循環器 (青柳 ×1/週)
- ・内分泌 (藤枝憲二 ×1/3 ヶ月)
- ・腎臓 (佐々木聡 ×1/3 ヶ月)
- ・神経 (斉藤伸治 ×1/3 ヶ月)
- ・血液 (小林良二 ×1/月)

病院全体の医師数	43 人
小児科医師数	5 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	360 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	24 床
NICU 病床数	7 床
新生児病床数(NICU を除く)	20 床
NICU としての認定	あり (なし)
平均小児科外来数	90 人/日
平均時間外外来数	5 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	1,589 人/年
年間のべ入院患者数	11,884 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	387 人/年
年間分娩数	690 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	83 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	4 人/年
年間呼吸管理患者数	6 人/年



**発表論文の詳細**

なし

**学会発表**

**全国学会**

なし

**地方学会**

なし

## 帯広厚生病院

### 所属メンバー

- ・ 提嶋 俊一 (主任部長、昭和 51 年卒)
- ・ 植竹 公明 (部長、昭和 59 年卒)
- ・ 寺本 忍 (医長、平成 13 年卒)
- ・ 内田 麻子 (医員、平成 14 年卒)
- ・ 大塚 耕右 (医員、平成 12 年卒)
- ・ 山崎 康博 (医員、平成 16 年卒)

### 卒後臨床研修医

0 名

### 専門外来

- ・ 神経外来 (×1/週)
- ・ 発達外来 (×1/週)
- ・ 心臓外来 (×2/月)
- ・ 免疫外来 (×1/2 ヶ月)
- ・ 血液外来 (×1/2 ヶ月)
- ・ 内分泌外来 (×1/3 ヶ月)
- ・ 腎外来 (×1/3 ヶ月)
- ・ 遺伝外来 (×1/6 ヶ月)

病院全体の医師数	131 人
(うち後期研修医 8 人、初期研修医 25 人)	
小児科医師数	6 人 (うち非常勤 0 人)

病院全体の病床数	748 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	25 床
NICU 病床数	3 床
新生児病床数(NICU を除く)	9 床

NICU としての認定            あり (なし)

平均小児科外来数	107.0 人/日	(26,428 人/年)
平均時間外外来数	14.0 人/日	(小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	1,068 人/年	
年間のべ入院患者数	10,688 人/年	(入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	327 人/年	

年間分娩数	508 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	46 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	5 人/年
年間呼吸管理患者数	13 人/年

**発表論文の詳細**

なし

**学会発表****全国学会**

なし

**地方学会**

1. 中村明枝、植田佑樹、寺本 忍、鈴木大介、植竹公明、提嶋俊一：インフルエンザ感染後、一過性の意識障害をきたし脳症を疑った一例。日本小児科学会北海道地方会第 266 回例会、旭川市、2006/7/2
2. 太田 圭、室野晃一、佐藤 敬、熊谷百祐、和田 隆、大石泰史、清水弘之、植竹公明：線状皮脂腺母斑症候群の 1 女児例。日本小児科学会北海道地方会第 266 回例会、旭川市、2006/7/2
3. 植田佑樹、植竹公明、末田慶太郎、江川 潔、朝比奈直子、白石秀明、斉藤伸治、加藤光広：ARX 遺伝子ポリアラニン伸長変異による早期乳児てんかん性脳症の一例。第 10 回日本小児神経学会北海道地方会、札幌市、2007/3/10

## 釧路赤十字病院

### 所属メンバー

- ・永島 哲郎 (副院長、昭和 50 年卒)
- ・水島 正人 (第 2 小児科部長、平成 4 年卒)
- ・鈴木 靖人 (第 3 小児科部長、平成 7 年卒)
- ・大倉 有加 (平成 13 年卒)
- ・古瀬 優太 (平成 15 年卒)
- ・藤原 伸一 (平成 16 年卒)

### 卒後臨床研修医

0 名

### 専門外来

- ・神経外来 (永島 毎週)
- ・心臓外来 (鈴木 毎週、村上智明 ×1/月)
- ・内分泌外来 (藤枝憲二 ×1/3 ヶ月)
- ・血液・悪性腫瘍外来 (小林良二 ×1/3 ヶ月)
- ・腎臓外来 (佐々木聡 ×1/3 ヶ月)
- ・染色体外来 (福嶋義光 ×1/年)

病院全体の医師数	53 人 (歯科医 4 名含む)
小児科医師数	6 人 (うち非常勤 0 人)

病院全体の病床数	489 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	42 床
NICU 病床数	9 床
新生児病床数(NICU を除く)	6 床

NICU としての認定 あり なし

平均小児科外来数	119 人/日
平均時間外外来数	3 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	2,526 人/年
年間のべ入院患者数	15,442 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	411 人/年

年間分娩数	1,051 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	116 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	22 人/年
年間呼吸管理患者数	19 人/年

## 発表論文の詳細

なし

## 学会発表

### 全国学会

なし

### 地方学会

1. 藤原伸一、古瀬優太、大倉有加、鈴木靖人、水島正人、永島哲郎：上腸間膜動脈症候群の一例。日本小児科学会北海道地方会 第 267 回例会、札幌市、2006/11/26
2. 古瀬優太、藤原伸一、大倉有加、鈴木靖人、水島正人、永島哲郎、執行雅紀、佐々木聡：体外衝撃波碎石術を施行した乳児尿路結石症の 2 例。日本小児科学会北海道地方会 第 268 回例会、札幌市、2007/2/25

## 釧路労災病院

### 所属メンバー

- ・ 仲西 正憲 (昭和 56 年卒)
- ・ 高橋 有美 (平成 13 年卒)
- ・ 中村 明枝 (平成 14 年卒)

### 卒後臨床研修医

3 名

### 専門外来

- ・ 心臓外来 (×1/月)
- ・ 内分泌疾患外来 (×1/年)
- ・ 血液外来 (×1/3 ヶ月)
- ・ 慢性疾患外来 (×1/週)



病院全体の医師数	67 人
小児科医師数	3 人 (うち非常勤 0 人)
病院全体の病床数	500 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	19 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	3 床
NICU としての認定	あり (なし)
平均小児科外来数	81.9 人/日
平均時間外外来数	4.3 人/日 (小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	1,054 人/年
年間のべ入院患者数	6,350 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	502 人/年
年間分娩数	489 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	48 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	6 人/年

### 発表論文の詳細

1. 盛一享徳、仲西正憲、村上智明: パルボウイルス筋炎による心不全に対するベータ遮断薬の効果. 日本小児科学会雑誌 111: 765-769, 2007

### 学会発表

#### 全国学会

なし

#### 地方学会

1. ネフローゼ症候群を発症した I 型糖尿病の 1 症例. 釧路小児科医会
2. 胆道閉鎖症の経過中に急性巣状細菌性腎炎を発症して診断に至った膀胱尿管逆流症の 1 例. 釧路小児科医会
3. MRSA が確認されなかった NTED の多胎例. 釧路小児科医会
4. 当院で急性腹症をきたし外科治療を要した 3 例. 釧路小児科医会

## 町立中標津病院

### 所属メンバー

- ・富澤 一浩 (昭和 57 年卒)

### 卒後臨床研修医

0 名

### 専門外来

なし

**平成 17 年度データ**

病院全体の医師数	20 人
小児科医師数	2 人 (うち非常勤 0 人)

病院全体の病床数	199 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	8 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	2 床

NICU としての認定            あり (なし)

平均小児科外来数	80 人/日
平均時間外外来数	40 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	400 人/年
年間のべ入院患者数	2,700 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	人/年

年間分娩数	220 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	人/年
年間呼吸管理患者数	人/年

**発表論文の詳細**

なし

**学会発表**

**全国学会**

なし

**地方学会**

なし

## 市立根室病院

### 所属メンバー

- ・小堤 罔雄 (昭和 49 年卒)

### 卒後臨床研修医

0 名

### 専門外来

- ・心臓外来 (八鍬 聡)
- ・内分泌外来 (田島敏広)
- ・神経外来 (白石秀明)

病院全体の医師数	11 人 (常勤のみ)
小児科医師数	2 人 (うち非常勤 1 人)

病院全体の病床数	199 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	26 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	0 床

NICU としての認定                      あり (なし)

平均小児科外来数	63.4 人/日
平均時間外外来数	5.2 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	439 人/年
年間のべ入院患者数	2,047 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	175 人/年

年間分娩数	51 人/年 (～八月末)
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	3 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	1 人/年
年間呼吸管理患者数	3 人/年

←新生児に非ず

①脳挫傷頸髄損傷後

②SMA-1

③在宅酸素、在宅人口呼吸器管理

**発表論文の詳細**

なし

**学会発表**

**全国学会**

なし

**地方学会**

なし